

聖徒の道

9

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第9巻第9号 1965年9月1日発行

SEITO-NO-MICHI



聖徒の道

第9巻
第9号

1965年 9月号

大管長メッセージ

喫煙の害.....デビッド・O・マッケイ...432
(The Editor's Page)

伝道部長メッセージ

私たちが日本を去るに当って.....ダウェン・N・アンダーセン...437

新伝道部長メッセージ

ドウゾヨロシク オネガイシマス.....小松義雄...439

主にまみゆる準備.....ハロルド・B・リー...441

特集記事

ハワイ神殿訪問記.....渡部正雄他...449

地方部のページ

東中央地方部.....465

支部だより

岡山・旭川.....469

えいごのべいじ.....472

表
紙



(ハワイ神殿訪問中の兄弟姉妹)



デビッド・O・マッケイ

今日全世界の人々は平和を切望しているが、この平和を得ることは戦争で勝利を得ることよりむづかしいように思われる。

もしも平和が永遠の原則という固い基の上に樹てられな
いなら、たとえ一時的に平和
が得られてもそれは永つづき
しないにちがいない。

喫煙の害（神権会における講話）

大管長　デビッド・O・マツケイ

愛する神権会の皆さん、何世紀にもわたって人間の生涯を支配して来た宗教の目的は何でしょうか。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は予言者ジョセフ・スミスを通じて現わされた主の言葉を以てこれに答えております。すなわち、神の御業である真の宗教の目的は……人に不死不滅と永遠の生命をもたらすことであります。（モーセの著一・三九）

そして個人の業績に関する限り、この世における人の栄冠は何でしょうか？ それは人格であります。私たちが生命を更に豊かに受けるように、この世に來られたイエス・キリストを通じて現わされた人生の律法に従うことにより進歩した人格であります。

人生における人間の主要な関心は黄金または名声あるいは財産所有でもあるべきではありません。それは肉体的武勇の進歩または知識の強化でもあり得ません。人生における最高の目的はキリストのような人格を育成することにあります。

知恵の言葉の中で予言者ジョセフ・スミスが靈感されたことをはっきり示す最も大切な声明は次の句であります。末の世において悪しきを企てる人々の心中に現在存し、また將來在らんとする悪と企図とのために、われ啓示によりてこの知恵の言葉を与えて今や汝らを警め、また汝らを預め警むるものなり。（教義と聖約八九・四）悪しきを企てる人々

の心中に現在存し、また将来在らんとする悪と企図とのために、この声明の目的は私に本世紀の二十年三十年代のことを印象づけます。

婦人の喫煙を誘惑したある煙草関係業者たちをとった手段を顧みて下さい。貴方は彼らがその計画を如何に陰険に始めたか覚えておりますか。まず喫煙は体重を減らすと言います。彼らのスローガンは、甘いものかわりに煙草を吸いなさいであります。後に皆さんの内のある人たちは劇場内で彼らが若い女性をして紳士たちの煙草の火をつけさせているのに気がついたでしょう。それからシガレットをともしまたは持っている婦人の手が掲示板に現われました。それから一、二年もするともう、ずうずうしく喫煙している女性の姿がスクリーンに掲示板に堂々と現われて来たのであります。

私は一九三一年の新聞の切り抜きを持っていますが、それはこのことを確認しております。次のように記されてあります。煙草製造業者たちは今や女性をねらっております。彼らは今日アメリカ合衆国内に二千五百万の若い女性がいる、もし彼女らが喫煙者となったら彼らの売り上げは三十六億弗から六十億弗に上がると主張します。これが彼らの主張であり目的であります。

今日皆さんもよく御存じのように揭示板や雑誌の広告に喫煙している若い女性が画かれております。そして今や最も陰險なことは、喫煙の広告がテレビによって私たちの家庭に入ってきて、若い男女に出来る限りの誘惑の光景を以て迫っております。

これらの陰謀を持った人々は私たちの青年にも悪事をたくらんでいるでしょうか？彼らがかつてこの有害な葉を以て世の女性を誘惑したと同様の方法を以て今日私たちの青年を誘惑していないか貴方たちの眼と耳をよく開けて見守りなさい。

私たちの青年は喫煙の健康上の有害さを教えられねばなりません。彼らは医者及び科学

者が喫煙と癌の直接の關係について実証したところを教えられる筈であります。

喫煙と健康問題国民調査会長のエマーソン・フート氏は次のように証明しておりま
す。この国において喫煙は一年に少なくとも十二万五千名恐らく三万名の死者に対し責
任を持っていると責任ある科学界の權威者は証言しています。

けれども単にこの死だけに止らないのです。数百万の人々が喫煙によっていろいろな
種類の不能者となっていることは疑いの余地がありません。(共同通信デゼルトニュース
一九六五年三月二十三日)

あるところでは六十パーセントから八十パーセントの青年及び成人とそれより少し下ま
わる女子青年及び成人がすでに喫煙常習者となり煙草の中毒にかかっていることが確認さ
れました。

喫煙者の高い死亡率は多数の関心を持つ団体をして健康上の危険防止のため積極的対策
をとらせるに至りました。英国学習院医師会、アメリカ癌協会及びアメリカ保健所は禁煙
運動に乗り出しております。癌協会は惜し気もなく研究費をつぎこんで一般大衆及び医学
会に喫煙についての情報を提供しております。保健所外科部長は彼の公的及び道德的立場
から、喫煙の危険性を強調することに力を入れております。

これらの機関と同様に多くの科学研究者たちが証拠を編集してすべての常識ある人々は
喫煙の危険性について充分に自覚している事実をはっきりと述べております。

喫煙の危険性を承知しながらも、煙草会社による煙草の広告はその頂点に達してお
ります。しかも喫煙がすでに生命に対する主要な脅威であることについての暗示は決して
なされていないのです。かえって広告は不断に喫煙のやすらぎと快適さを強調しているの
であります。これらの煙草広告者たちは既に研究者が煙草の危険について証明しているに

拘わらず無謀な放縦さを以て促進させております。如何に善意に解釈しようと、これらの促進者は人間の生命の価値を無視していると言わざるを得ません。煙草産業の成功は死をさげることよりも大切なようです。

百三十二年前に二十七才の青年が煙草は人体に有害であると世に告げました。末日聖徒イエス・キリスト教会の聖徒たちは神の啓示によって知恵の言葉を与えられ、その中で彼らは如何なる形においても煙草を用いないように忠告されております。彼らはその結果よい健康を約束されております。誰も喫煙について如何なる危険も知らなかった時代に、これは不思議なことです。ほとんどの会員がこの与えられた教えを受け入れております。

今日二百万以上の教会の人々による示威運動は懷疑者にとつて印象的であるに相違ありません。数千万の十代の青少年は決して喫煙したことがありません。彼らは喫煙は滅亡への習性であり、それは人間の心身を害するものであることを知っておるのであります。

私たちの家庭においては、喫煙にふける青少年は神の王国と教会内での進歩成長に貢献せず、社会上においても責任ある地位を準備していかないと言わざるを得ません。予言者ジョセフ・スミスに対する神の言葉は、タバコは人によくはないとのことでありますが、この宣言は別に資格づけられたものでもありません。科学者はそれを実験しました。それを認めないように努力した人はすべて失敗しました。そして私たちは人として神からのその誠命に委ねられているのであります。如何なる形にせよ私たちの青年たちの生活から喫煙の習慣を取り除くべきであります。嗜好を拒むことは性格を強めます。そして唯習性だから続けているということは正当化されません。そしてある人はタバコの害から免疫となつていふかと思ふかも知れませんがそれは神権者として喫煙を正当化するものではありません。父親及び神権者は青年たちが見習う価値ある模範者たらねばなりません。青年たちは貴

方たちを立派な人と見ているのです。彼らの理想はローマの提督が「見よこの人だ」と指摘した時にキリストが持っていたような属性に近いまでに貴方の性格にのびたキリスト的な性質の形成であります。貴方がその習性を持っていたとしても、それを克服することによって強くなるでしょう。

「貴方をまどわすような試みがない時に、

内から外から貴方を誘惑する罪のささやきがない時に、

道徳的な生活をするのは容易であります。

けれども火の試練を受けるまではそれは単に消極的な道徳であります。

この世の中で誉れある人は

欲望を拒絶した人であります」

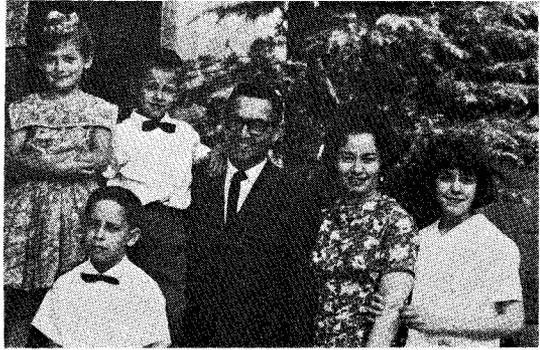
(エラ・ファイラー・ウイルコックス。価値あるものから)

私らの青年たちよ。もしも貴方たちが健康的な生活を望むなら、心身共に健全で、体も強く元気はつらつとなり、スポーツに、バスケットボール及びフットボールのゲームに競走または跳躍の試合に、優秀でありたいなら、もしまたよいスカウトになりたいなら、また何処に在っても、如何なる事業においても善良な市民でありたいなら煙草を避けて厳しい宗教的な生活をしなさい。

どうぞ神が神権者としてまた父親としての私たちが、この大いなる教訓を子供たちに印象づけることが出来るように、すなわち肉欲は不幸とあわれもたらし、霊の思いすなわち福音の原則に従うことは、永遠の生命と平和を得るものであるとの真理を教えることが出来るように助けたまうようへりくだってイエス・キリストの御名を通してお祈り致します。

アーメン

伝道部長メッセージ



ダフエン・N・アンダーセン

私たちが去るに及んで私たちの心は皆様の上に皆様と共にあります。

私たちは皆様が続けて進歩しますように祈っております。

思います。

一九四八年に伝道部が再開されてから教会は主として高等学生及び大学生の関心をよび彼らが卒業して就職し又は家庭を持つと、もはや教会は不必要な存在であるかのように見えしました。教会のふんいきは高等学校かまたは大学の倶楽部のような感じでした。パプテスマは増加して行きましたが、それに平行して不活性化も増えて行っただけです。その結果、教会の出席者は絶えず変って行きますが出席者は殆ど同様であったのです。そこに真の成長はなかったのであります。

この状態を変える為にまずとられた方法は宣教師の模範と実質改善でありました。宣教師が積極的態度に進歩して行っただけで、彼らの福音に対する知識及び言葉は増大して行きませんでした。彼らは、より強い愛と協力を以て働らき始めました。彼らは年配者あるいは短時日に将来の指導者となれる人々を探し求めました。宣教師はまた支部活動に力を注ぎ、その結果、支部会員の尊敬の念と協力を得たのであります。

次の段階は支部における神権計画の推進であります。男子会員にとつて神の王国の幻想をとらえるには神権を受け用いるように教えられ準備されねばなりません。神権計画は人々を指導者となり奉仕する者となるように準備しました。

三番目には指導者たちにその責任を教え、彼らがその責任を果せ

私たちの生涯を通じて最も楽しく素晴らしかったお召しが今終ろうとしております。大管長会は私たちを解任しその後任としてアドニー・Y・小松部長を召されました。私たちが去るに及んで私たちの心は皆様の上に皆様と共に在るでしょう。私たちは皆様が続けて進歩しますように祈っております。私たちは皆さん方が将来とも主の王国の発展に力を尽くされることに感謝し、皆さんを愛しております。

将来への鍵の一部は過去にありますので、私は少しの間振り返って私が日本と神繩において起った奇跡と呼ぶものを分析して見たいと

るように助けることであります。各地方部大会に指導者会が開かれました。特別な指導者養成会が東京及び大阪地区に開かれました。地方部長講習会が年に一度伝道本部で開かれました。指導者たちが福音の理想を把握するにつれて彼らは教会の完全なプログラムを待ちたいと感じ始めました。現地の指導者を助けて地方部及び支部の組織を強化する為に地方部宣教師制度が採用されました。

第四番目は神殿訪問計画の推進でありました。忠実な会員にとつて神殿訪問は夢でありましたが、主の助けと多くの働らきによって、この夢は遂に実現したのであります。それは会員をして先祖を遡り千枚以上の家族の記録をソルト・レークに送り、これら先祖たちのために神殿の儀式が執行されるようにチェック及びクレヤされたのであります。神殿に入るための準備は指導者たちをして内的には靈的に自分自身を高め外的には活動を進歩させて完全な教会のプログラムをま近かに迎えるようにしたのであります。神殿計画はまた家庭の神の王国内に占める重要さを示しました。主が忠実な家庭を祝福し、その人生において成功するように助け給うことが示されました。家庭は教会及び神の王国の中心であります。この地において、良きモルモンの家庭がつくられることによつてのみ教会は発展するのであります。

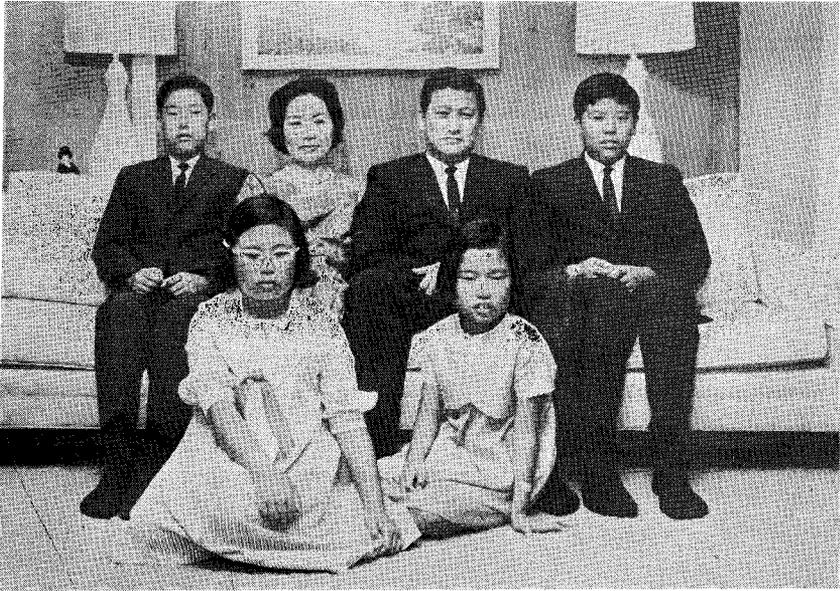
この四つの段階を通じて奇跡がもたらされたのであります。主はこの伝道部の宣教師及び会員たちに、豊かに主のみたまも注がれました。この奇跡は会員及び宣教師たちが勤勉に努力し、主のみたまを受け、活用するように準備したから起つたのであります。日本及び沖縄における神の王国の将来への重要な鍵は宣教師及び会員たちが主のみたまを受け活用出来るように常に準備されているように続

けて生きて行くかどうかにかかっております。お別れに臨んで私は皆さんの続けての素晴らしい進歩発展の一助として次の五項を提案致したいと思ひます。

- 一、積極的態度。貴方は神の息子であり娘であること、そして神のようになれることを覚る。
- 二、福音のすべての律法及び誠命に従うこと。
- 三、神の計画を理解し推進するように勉強し祈ること。
- 四、勤勉な働らきと他人への奉仕を通じて、貴方の指導者を支持すること。
- 五、福音のメッセージを他人に分け与えること。

私はこの伝道部の宣教師及び会員たちの心に生じていることにスリルを覚えます。神の旗は極東にかかげられました。このアジャの民を覆っていた暗黒のとはりは開き始められました。主はその光と真理のみたまをこの太古の地に注がれました。忠実な真面目な人々は神の息子及び娘としての正しい地位に集りつつあるのであります。誠に神は彼らを、すべての祝福の備った完全な教会のプログラムの世嗣として準備しつつあるのであります。

貴方がたがアジャにおける貴方がたの使命が達成されるように、小松伝道部長に全幅の支持を与えられますようにお祈り致します。私たちは皆さんが新世紀の挑戦に応じられるであらうことを知っております。私たちの心は皆さんを知り皆さんと共に働いた喜びと感謝で一ぱいでありませう。



(新伝道部長御家族)

ドウゾヨロシク

オネガイイタシマス

新伝道部長 アドニー・小松義雄

新伝道部長メッセージ

アドニー・小松義雄

日本及び沖縄の愛する兄弟姉妹の皆さん

私たちの先祖の地、日本に来たことはほんとに幸でありました。私と私の家族は、いつも日本に来て私たちの系図を探求したいと望んでおりました。

私たちはこの召しを非常に感謝し、天のお父様の御業を推進するために宣教師や皆さんと共に働ける特権を特に大きな祝福であると喜び感謝致しております。お互いに助け合って、聖典を勉強し、福音の内に、しっかりと成長して行きましょう。

私は十九年前に軍務で東京に駐在しました。それから日本は建物に街道に、すっかり変わってしまいました。私は自分の妻を改宗する特権に恵まれました。一九五〇年に私たちはハワイの神殿で永遠の結婚を致しました。私たちはこれは大きな祝福であったと感じ今は十三才と十二才の二

人の息子及び九才と八才の二人の娘に恵まれ幸福な家庭生活を送っております。

先月ハワイで皆さん方のうち、北部極東伝道部からハワイ神殿訪問に参加された一団の人々にお逢い出来たことは素晴らしいことでした。わずかな時間ではありましたが神殿内で皆様に協力して働くことが出来たことは私の証を非常に強めました。貴方がたは素晴らしいみたまを持っており神殿内のみたまは圧倒的なものでありました。

これから皆さん一人一人と親しくなりたいと切望しております。

皆様の上に天のお父様の祝福が豊かにありますように。

(写真は羽田到着時の
伝道部長御家族)



主にまみゆる準備



十二使徒

ハロルド・B・リー

わたしはこの献堂式に必らずやまします主の「みたま」に自らを協調させようと懸命な努力をしました。わたしは自分の知識が献納される神殿の中で現われるかどうか、言いかえるなら神殿の意義とは何かということについて考えてきた。わたしはマリオン・G・ロムニー長老が提供したあの優れた神殿史について論ずることを誇りとしている。

わたしは全霊をかたむけて大管長の言葉にきき入った。彼は予言者たちがその当初から主の福音をうけるに足る準備をするよう懸命に人々に呼びかけてきたことを繰り返して述べているように思った。

モルモン経のベンジャミン王はその大説教の中で次のように述べている。

『さて私の兄弟たちよ、わたしはお前たちを戒めて言う。お前たちが以上のことをみな教えられてこれを悟ってから、もし

罪を犯してこれまでに告げ知らされたことに背くならば、これがためにお前たちは主の「みたま」から遠ざかり「みたま」はもはやお前たちに宿って智恵の道に導かず、また恵みと栄えと保護とを与えたまわれない。以上のようない行ないをする者は公然と神に背く者であって、喜んで悪魔の計りごとを聞き、あらゆる義の敵となる。従って主は清くない所に住みたまわれないから、このような者に宿りたもうことはない。それであるから、このような者ももし悔い改めをせず、神の敵であるま

ま生涯を送って死ぬならば、神の正義の要求はその者の不滅の霊を呼びさまして自分に罪のあることを強烈に感じさせる。これによってかれは主の前から退き去り、罪の自覚と苦痛と憂いとは胸に充ちてちよどとこしえに焰をあげる消えぬ火のようである。

さてお前たちに告げる。このような人には憐みもその力が及ばないから、その最後の状態は果しない責苦を受けることである（モーサヤ書二章三六―三九節）

わたしがこの機会のために自ら準備してきたと言うときには、マッキー大管長の言葉そのものを考えようとしてきたと思う。彼の昨日の話は此処にいる全員にどんなに深い感銘を与えたことだろう。彼は今、目前の人たちのみならず元大管長、使徒たちをも歓迎した。さらに三番目の歓迎ほどわたしの心をうつものはなかった。それは霊界にいる吾々の愛する人たちの歓

迎である。

たしかに、吾々と幽冥境を異にする人たち、かつて吾々が心から愛していた人たちと最も近いところにいると言うことは感激である。彼等の死は吾々自身の一部の死にも等しかったのであるから、今日かかってないほど近くにいたことができ、しかもかれらの中には予言者ジョセフから全前大管長と回復された十二使徒たちがいると感ずることほど感銘深いものはないのだ。わたしも彼等の末席の一人であるから、今日この仲間にあつてふさわしい者でありたいと願ったのである。わたしはこの願いがかなえられるよう祈りながらやって来たのである。

もし「みたま」が望まれるならば、わたしは私の心中にある幾つかの事柄と、兄弟たちの言葉についての私の記録に関し少し述べてみたいのである。

宣教師団が神殿に入る場合、わたしが役立つときは、私の任務は彼等に面接してかれらの質問に答えることであつた。最も多い質問の一つは「今日この主の宮居で授けられている諸儀式を教会はどこから得たか」というのであつた。わたしは主がその啓示の中で語られた言葉を宣教師の各グループに読みかさせた。『われ創世の前より隠されたこと、すなわち時満ちたる神権の時代に関することをわが教会に示さんと図ればなり。而してこの宮居——主は神殿をさしている——に関するすべてのこと、この宮居に関する神権、またその建てらるべき場所などはわが僕ジョセフに、われこれを示すべし』と(教義と聖約一二四章四一—四二節)

この聖句は、これまでも述べられてきた通り、この神殿が建

てられるべき所で、主が賜わろうとするものを受ける権能を持つ人々に示されたものであることはたしかである。それは偶然ではなかつた。ここで執行される諸儀式は啓示によるものであつた。啓示には二つの型がある。一つは、教義と聖約に書かれてあるものや、世間のどこにでも公表さるべき種類のもので、他の一つは非公開的啓示と言うべきかも知れない。すなわち、それらはアロン神権、メルケゼデグ神権に屈し、主の宮居(神殿)において執行される最高の儀式の準備のためにさざる啓示である。

神の王国の凡ての鍵を持つ者は、教会管理の大管長といえども重大なる責任がある。主は偉大なる啓示の中で、ペテロに対して『わたしはあなたに天国のかぎを授けよう。そしてあなたが地上でつなぐことは、天でもつながら、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう』(マタイ伝二六章一九節)『黄泉の力もそれに打ち勝つことはない』(マタイ伝一六章一八節)と言われた。今、もし死者の救いに関する諸儀式が与えられていなかつたならば、黄泉の力は主の御業に打ち勝つていたのであろう。福音に関する儀式を執行する神権が地上に行なわれなかつた期間にも、そこには幾百万の人が住み、彼等は信仰深い人たちであつた。もし、それだから、福音の智識をもたず死んだ人たちのためにこの儀式を行なう道がひらけていなかつたら、黄泉の力は天父の救いの計画に打ち勝つていたかも知れない。

ペテロに賜わつた言葉は本質的には予言者ジョセフ・スミスに授けられたものと同一であつた。もし諸君がこれら二つの御

言葉、そこに盛られた意義並に意味と比較するならば、それらは正しく同じ意味を持つことがわかる。これこそ主が予言者ジョセフ・スミスに言われた『そもそもこのことの全部に関する偉にして大いなる秘密と、われらの前にあるこの問題全部の「至善」とは聖なる神権を得るにあり。およそこれらの鍵を与えられたる人は、生くる者はもちろん、死にたる者たちも救う人の子らの救いに関する事実の知識を得るにいささかの困難も感ぜず』（教義と聖約一八章一節）と。

だが、今心すべきは、このことは、この啓示をうけた予言者ジョセフ・スミスに対してではないということである。同じことが今日凡ゆることに關する啓示をうける権能を持っているデビッド・O・マッケイ大管長についても言えるのである。

時の始めからエンダウメントを授ける方法は種々あって、これらの手段を通じて、それを願う人たちに与えられてきた。最初のエンダウメントは明らかに神殿の中では行なわれなかった。予言者スミス自身のジャーナルの中にこの意義ある声明を発見する。曰く「私はその日倉庫の二階（それは私個人の事務室であった）で過した。……：：：ジェームス・アダムス將軍、ハイラム・スミス大祝福師、ニューエル・K・ホイットニー、ジョージ・ミラー両監督、ブリガム・ヤング大管長との評議の中で私は彼らに聖職についての教義と聖なる洗ひ、灌油、エンダウメントと、アロン神権の鍵に關する情報に當つての聖職の秩序と、同じくメルケゼデク神権についての最高の秩序を教え……：（今もし次の言葉に注意するならば聖なるエンダウメントの素晴らしい定義を知るのである）古代の秩序と、最初の教会のため

に準備された福音を誰にでも充分に獲得せしめ、永遠の世界の天父の御前に來り住み、俗世と黄泉の代りに昇榮を得せしめる總ての計画と教義を説明した」と。（教義と聖約五章一一二節）今わたしは、エンダウメントの最も完全な定義の一つが、多分この言葉の中にあると言ふことを述べよう。

予言者の事務室であつた倉庫の二階で、聖なる洗ひと灌油の儀式が行なわれたことを忘れてはならない。彼は聖職の鍵についても教えた。この教えとその後各神殿で与えられた訓戒との間には、その方法を除けば少しも差異はなかつた。もつともその方法もその後進歩し、部分的に劇的手段をとり入れたり、またある部分では講話や質疑応答を混えた各種の表現方法を採用した。また最近では大管長の靈感のもとで一層の發展がみられ、視覚的手段も聖なるエンダウメントの教えの伝達に利用されている。

吾々はしばしば生きた予言者たちの時代に生活していることを忘れ勝ちである。吾々は死せる予言者たちばかりでなく、生きている予言者も信じているのである。ある人たちは予言者ジョセフの言葉を、またある人たちはブリガム・ヤング、ベンジャミン王、またはモーゼの言葉をうけいれようとはするが、今日生きている予言者に従うことはためらうのである。

最初の神殿の建築に當つて一つの手本があつた。主は啓示の中で言われた。『われ誠に汝らに告ぐ、わが示す範式にならいてシオンの地にわれに家を一ツ建つるはわが旨なり』と。（教義と聖約九七章一〇節）そこには最初の神殿予定地と建築設計図の青写真があつた。それは建築士によつたものか、大管長か

ら直接来たものとわたしは考えているが、よくは分らない。
「だが大管長はその建築は『私があなたに与えた型によく似ている』と言われた。それから彼はまた地上の最も美しいものを如何にして集め、神殿に納むべきかについて語った。換言すれば、彼の望みは、これらの神殿は誇張したものでなく、最も優れた技術による最善のもので、それゆえにわれわれが主を迎えるのを誇りとし、主もまた悦んで来られる場所でないならばない。

この建築の目的について彼は次のように声明した。『……すなわち、こはすべての聖徒の感謝を捧ぐる一つの場所』となることで、それは吾々が爾来今日まで凡ゆる表現をもって感謝感激して来たのである。そしてそれはまた『すべてそれぞれの職と務めとにおいて福音のために働く仕事に召されたることごとくの人々を教うる一つの場所となり、かくて彼らが福音のために働く仕事を理解することにおいて、理論において、原理において、教義において、また汝にその王国の鍵の授けられたる。この世の神の王国に関するすべてのことにおいて完き者となるを得んためなり』（教義と聖約九七章一三一—一四節）とある。

何故に建物が必要であったか。これについてロムニー兄弟は素晴らしい説明を与えている。主は一、二の啓示の中でそれに触れておられるので、私はそれを参考までに簡明に述べてみよう。

『而して、わが民主の名によりてわれに一つの家を建て、これを汚さざらんため穢れたるものをその中に入るを許さずば、わが栄光その家に留まらん』（教義と聖約九七章一五節）

それから、もし吾々が不潔なる者が主の家に入るを許してこれをけがすとすれば、主は更に『もしわが家汚さるる時はわれその中に入り来らし、さればわが栄光その家にあらざらん』（教義と聖約九七章一七節）と付け加えられた。今、主はその家について語ろうとしておられた。

諸君の中の多くの人は、前十二使徒会の一人で、マッケイ大管長の親密なる同志であるオルスン・F・ホイットニー長老を憶い出すであろう。彼等は身長も高く、また同様に文学的才能があり、非常に雄弁であった。私は少年時代に、文学的才覚豊かな双生児—二人の偉大なる主の使徒—としての彼等についていつも考えていた。ホイットニー長老は、アルバータのカードストーン神殿の碑文に、

この城壁の中に入るためには心は清くなければならない
そこでは知られざる宴が祭典場にまで拡がる

神は自由に与えられたので、勝手に食べ
王国を語る聖なる喜びを味わう

ここで墓の上にかちどきを挙げ
人々に鍵を王国を授け給うた主について識る
ここで過去と現在がしっくりと結びつき
生ける者と死せる者が完全に一つになる

(インブルーメント・エラ

一九二五年四月号五〇七頁)

と寄せている。

アダムの時代に、彼は動物の犠牲を捧げるよう命ぜられた。

アダムの後の予言者たちはこれらの犠牲は最も完全な、汚れなき羊、牛の初ものでなくてはならぬと教えられた。私がマツケイ大管長の話をきいていた時、彼がシオン山上の救い手として、死せる血縁者のために神殿で働いている吾々に言及した時、私はこの考えが私の胸に浮んできた。シオン山上の救い手である吾々によって行なわれる、死者のための代理行為に際して、主は出来る限り汚れなき人々によってそれが行なわれることを望まれるのである。主が動物の犠牲が汚れていないものを望まれると全く同様に、吾々もまたシオン山の救い手としての代理行為を果すにふさわしく純熟且つ清潔で神殿に来ることを望まれるのである。

そこで吾々は監督やステーク部長らと相談して、会員で推薦をうける準備をする者に対して綿密な注意を払い、おのが罪を悔い改めなかつたり、間違いを犯してなお改めず、この聖なる家をけがすような者たちが此処に来ることを赦さないようにした。わが天父の真近かまで、今もなお罪と不潔の意識を持たず近付いて来る者ほどこの地上における悪魔はない。それはまことにふみにちられ、傷つけられた経験となるだろう。

ブリガム・ヤング大管長の、私が今此処で述べている事柄についての発言について主の御言葉がある。『きつねには穴があり、空の鳥には巣がある。しかし人の子にはまくらする所がない』と。(マタイ伝八章二〇節)

ヤング大管長はこの点にふれて言った。『イエスが彼にはまくらする所がないと言われたけれども、それは真実であろうか。天父が彼のために家を建てるように命ぜられたがゆえに建

てられたその家は、完成はしたが汗がさがれてしまった。そこで天父は『わが家は祈る者の家である、だがお前たちはそれを盗人たちの巢窟にしてしまった。』と言われ、ひもの鞭を作って高利貸や博徒や偽説教師を神殿から追出し、机をほうり出された。しかしそれは神殿を清くすることにはならなかったので、神はそこに眠ることができなかった。それは聖なるものがその中に宿っていないからである。(JD, 2: 30; Discourses of Brigham Young, p. 414) この地上には人の子が来て住み、まくらする所がなかったのである。

今や神殿儀式の性格は、吾々が一般的な方法で読みとることのできる幾つかの啓示の中に出ている。従ってたとい教会の会員でなくても、理解できるのである。だがこれらの啓示は安全に護られている。それはそれらが秘密であるからではない。もしその人が適切な推薦をうければここに来てもよいからである。全世界の人も、もし彼等が福音をうけその訓戒に従って生活するならば来てよいのである。もし彼が教会の会員として価値ある人であるならこの宮居に来てよいのだ。

だがこの諸儀式は秘密であるものと比較対照される場合に神聖であると言えるだろう。これは他の訓戒の中においても同様である。『聖なるものを犬にやるな。また真珠を豚に投げてやるな。恐らく彼らはそれを足で踏みつけ、向きなおってあなたがかみついてくるであろう』と主は言われた。(マタイ伝七章六節) そしてまた諸君は主が話そうとしておられたことを意味すると思われる若干のことに関連して、主の御言葉を憶い出すであろう。すなわち『それゆえを以って、われモーゼに荒

野に在りて共に運び歩くよう幕屋を造り、また創世の前より隠されたりしこれらの儀式を顕わさんため約束の地において一つの宮居を建つべし（これら神殿はロムニー長老が話しておられる）（教義と聖約一二四章三八節）その目的はかくの如くであったから、これら聖なる大建築の聖所、このような神殿の中において、他の場所ではあり得ないようなことが顯示されるであらう。

私はもう一つだけ私の心に抱いていたことを述べよう。あらゆる会議であの偉大なるマラキの予言者は『見よ、主の大きいなる恐るべき日が来る前に、わたしは予言者エリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもってこの国を撃つことのないようにするためである』と言っていた。

諸君もわたしはそのことについて一つの考えを持っていたことは理解するだろう。この考えは、マッケイ大管長がこの聖句を繰り返されるのをきいていた時に浮んだ。ロムニー兄弟が言ったように、エリヤは天井から幕が下ろされ、説教壇との間に閉ざされた部屋が出来、鍵をうける準備が整ったカートランド神殿にやって来た。ジョセフとオリバーが跪いたのはそこでであった。またモーゼとエリヤと新約のエリヤが救い主が最初に来て説教壇に立たれて後にやって来たのもそこであった。

わたしは諸君に今日話そうとしている全教会の家族の指導計画について考えること望むのである。マッケイ大管長の指令の下に吾々は教会全体に家庭における両親と子供の関係を強化す

る計画を送ろうとしている。それは何も目新しいことではない。それは、マッケイ大管長の言葉を借りれば、ジョセフ・F・スミス大管長と彼の評議員達が、もし両親たちが一週に一回子供たちを自分の周囲に集め、福音を教えるならば、彼等は踏みはずすことはないと会員たちに約束してから五十年の間語り続けられて来たことなのである。

それでは今日は何を準備しようとしているのだろうか。それはこの地上で両親の心を子供に、子供の心を両親にむけることではないだろうか。諸君は、両親がその心を子供に向け、子供が同様両親に向けねばならぬ唯一の時に両親があゝの世に去ってしまおうと言うことを信ずることができだろうか。私がおりに坐って兄弟たちの言葉について考えをめぐらすとき、諸君に熟考して貰いたいのは、もし諸君が指導を怠って来た子供たちのために諸君の心をむけないで待っている間に死んでしまったならば、諸君と家族のきずなは確保されるかどうかということである。多分今こそ生きている間に両親の心をその子たちにむけることを考える時であろう。それは両親なき後も彼らのきずなは死を越えて永遠にむすばれるからである。これこそ真に現実的な考えであり、吾々の熟考を求める事柄である。

吾々がこの世で熱望する欲求の中で、忘れ勝ちなのは、現在ここに住む吾々にとって偉大にして力強いこれらの原則である。

数年前私はプロボの会合に出席したことがある。不活発な夫婦会員を出来るだけ多く確保するために多くの夫婦たちが出席した。もしこの会合の間えるところに、未だかつてエンダウ

メントをうけるためこの聖なる宮居に來たことのない人たちが幾人かあるならば、私の見た最も印象的で劇的だった次の事柄について考えて貰いたい。吾々は一人の母親に、彼女が最近その夫と家族をつれて神殿に行ったときの喜びについて語るように頼んだ。彼女は夫が若い人と同様に如何に無頓着であったか、彼はすつと抜け出しては、何か習慣的になつてゐる事柄の方に手を出し、聖職の昇進の時が來ても少しも準備が出來ていなかったと語つた。彼等は恋愛し結婚の用意はしていたが、神殿にゆく準備はしていなかった。彼は言つた『もし君が僕と一般的な結婚式によつて結婚してくれるなら、僕は僕の習慣を清算して、君を神殿につれてゆくことを約束するよ』と。

さて幾年かは過ぎてしまつた。彼が朝に行なうことは、夜には失敗するというのが常だつた。このことは彼らが五人の娘を持つまで何回となく起つた。そこで神権をもつた幾人かの會員が「多分家庭訪問の指導者だつたと思はれる」忍耐と力と権能と愛をもつて、ペテロが美しの門における重要な人にしたと同様に、彼の手を取り、高く引き上げた。それはイエス・キリストの名において彼に歩くように命じたのではなく、ただ引き上げたのだ。これこそこの種の兄弟たちに対して吾々がせねばならぬことである。彼の妻は監督が『さあ今こそ君は長老になるに應しい。私は君を推薦しようと思ふ。そして聖任が終つたら私は君の妻君と五人の小さな娘さんたちが神殿にゆけるよう推薦しよう。』と話したと言つた。

彼女は神殿訪問の日のことについて語つた。彼等が神殿を通り、聖なる祭壇を横切つて進んだ後、彼等夫妻の結び固めの式

が神の権能を持つ人によつて執行された。そこで扉は開かれ五人の小さな娘たちが美麗な白衣につつまれてそこへ現れた。彼等は祭壇のまわりに立ち神の代行者は彼等が永遠の家族であることを声明した。

彼女はその情景を美しく語つた。彼女は話す間涙で一杯だつた。それから彼女は説教台に寄りかかつた。彼女の夫は彼女の右手の一、二列後ろの方にいた。彼女には、そこには彼等夫妻以外に誰もいないかのように思われた。彼女は言つた『ねえお父さん、私と娘たちはあなたがわたしたちにして下さつたことについて感じてゐることをどう話したらよいか分らないわ。私の言えることは、あなたのために心の底から神に感謝するだけだわ。天国の家庭の扉の鍵である神権をもつてゐるあなたがいなかつたら、娘も私も今後一緒にはなれないでしょう。お父さん、心から感謝します』

それから其処には皆のすすり泣きがあつた。このとき私は、全教会の無頓着な父親たちが、彼らが家庭の長としてめざめ、その神権の執行によつて若い妻や子供を余り遅くならない中に神殿に連れてゆくことを望むことが出來た。今吾々が主張してゐることはこの種のことである。

吾々が神殿に毎日歸つて來るように、私はいつも心の中に主がニーファイ人に対して言われた別れの言葉を憶ひ出してほしい『……イエスはこう言つて群衆を見まわし、さらにつづけて仰せになつた。見よ、われ汝らを去る時近づけり。汝らは理解力弱く、御父が今汝らに説き伝えようとわれに命じたまいし教えが、ことごとく汝らに了解されざること明らかなり。されば

汝らは各々その住居に帰りて後、われがこれまで汝らに語りしことをよくよく考えて、汝らの理解できるために、また明日教えを聞く準備をするために、わが名によりて御父に祈るべし。われは明日再び汝らのところに来らん」と（ニーファイ第三書一七章一—三節）

主にまみえんために諸君はどのような準備をしているか。

『ゆえに、汝らの心誠心誠意神に向かわんがために、汝ら自ら聖くせよ。さらば汝ら神を見るの時あらん。……而してそは神の時、神の欲するまま、神の旨によりて起るべし』（教義と聖約八章六八節）と主は語られた。

ここに主が啓示の中で吾々に与えられた教えがある。『誠に主はかくの如く言う。その罪を捨ててわれに來り、わが名を呼び、わが声に従い、わが誠命を守るあらゆる人々は、わが面を見てわれ在るを知るべし』（同書九三章一節）

主の力による諸啓示に対し神に感謝する。これらの啓示こそ私の魂に対して、神が生きていますこと、そして神は救世主であることが心から理解していることを証している。此の神殿は神聖なところだから、主がその頭をよこたえて休むことの出来る場所であることを私は知っている。ここに來る諸君は清き心と目と神に対するひたむきの心を持って來ますよう。そうすれば諸君は神の存在とマッケイ大管長が昨日歓迎された人々の存在を感受するだろう。たしかに、私もこの会議中、私の愛する妻の存在を私がここに坐っている間に感じた。神はわれわれがかく感ずることを許される。従って吾々が吾々の視覚の彼方にいる人々、あるいは主自身とのつらなりを持って生きるこ

とも許されるであろう。

主よ、吾々が彼らの存在にふさわしく、彼らの励げましの指示をうけるに足る生活をおくれますようお願い下さい。これらのいたらぬ祈りを主イエス・キリストの御名を通していたします。



特集

ハワイ神殿訪問記

渡部正雄

七月二十二日(木)

一九四九年十一月六日バプテスマを受けてから約十六年間夢に見ていた神殿訪問の日に遂に訪れました。主の大きいなる祝福とアンダーセン伝道部長はじめ全伝道部及び海外の兄弟姉妹の暖かい愛と助けによりこの夢が実現しましたことを心から感謝しつつ一同七時に東京中央支部に集合、渡辺副伝道部長の厳粛な祈りの後に四台のバスに分乗して一路羽田空港へと向いました。一行は伝道部長夫妻を入れて大人百四十一名、子供二十六名、三千哩以上にわたる長距離をこのように多数の幼児を交えた団体が旅行するのは航空史上始めてだそうで新聞、テレビにも報道されることでした。横浜支部の六カップルと北支部の兩宮姉妹は山田副伝道部長引卒の下に一般乗客とともに十時出発、其の他の一行はモルモンジェット機として一台チャーターして

伝道部長夫妻の引卒で十時五十分出発、雨中

に傘をさして記念撮影をとり大勢の兄弟姉妹に見送られてつづ両機とも太平洋の空の彼方に姿をかくして行つたのでした。

七月二十二日

おいしいスラックを戴いて一寸まどろみましたが五時間も時計を進めているのでまたたく間に夜が明けて十時頃ジェット機はホノルル空港に、その勇姿を横たえたのでありました。検査官の門を過ぎると真先に歓迎委員長のアンドラス前伝道部長のなつかしい大きな姿が眼に入りました。思わず走りよって手を握るとあの大きな胸で抱きかかえるようにしてポロポロと涙を流された。外へ出ると大勢の白人、ハワイ人、日系の会員たちが次から次へとレイをかけて下さり、あわただしい中によがて歓迎のフラダンスが始まりました。相良、福井両兄弟がこれにまぎって見事な腰つきで踊つたので大喝采を拍し、早速ニュースカメラマンにパチリとおさめられて翌朝のハ

ワイ新聞に出ました。

現在カナダミッシェンの副伝道部長であり十三、四年前に日本の副伝道部長であったハセンセン部長がすでに七十を越えられたのにかくしてそのなつかしいお姿を現わされたのには驚きました。また小松新伝道部長も頼もしいどっしりした巨体を現わし、にことにことした温顔にすぐ親しみを覚えたのであ

(ライエポインドで)



りました。

また今から四十三年程前に家族を伴って伝道され日本で二人の子を設けハワイに帰ってから出来た息子さんが三年程前に日本に伝道し横浜でも監督長老として素晴らしい愛の伝道をされたクリスチャンソン親子が迎え、お父さんの方が私を奈良兄弟と間違えて、とんで来て、四十年前に一緒に北海道に行ったのを忘れたかと言われたのは面くらいました。十数年前に伝道した武内長老始め池上長老、鳥袋長老、山下姉妹、森川姉妹など多くの昔の宣教師たちが次から次へとそのなつかしい姿を現わしました。皆よいお父さん、お母さんになって大きく成長した子供さんたちの手をとって迎えてくれました。現在横浜で伝道しているポキパラ長老のお父さん、お母さんはどちらもおすもうさんのようにふとって典型的な善良なハワイ人の笑顔でニコニコとさも嬉し気に迎えてくれました。半年前からこのたびの私たちの訪問の準備のためにハワイに渡っていられた佐藤竜猪兄弟も元気なお姿で日本にいられる時より若くなっていました。

やがてモルモンジェット機も到着してアンダーセン伝道部長夫妻を先頭に次から次へと

出てくる聖徒たちが皆、白、赤、紫のレイを首も廻らぬ程にかけられて空港は五色の花とその芳香に眼もくらむばかり、また喜びの歓声に湧きかえったのでありました。記念撮影も終えてから一行は四台のバスに分乗してライエに向かいました。青空高くそびえるココナツの街路樹、ゆうゆうたる構えの美しい庭園には緑したたるバナナ、芳香を放つ真白なブルーメリヤ、ハイビスカス、オヒヤ等々赤紫

と目も覚めるような珍らしい花が到るところに咲き乱れ、始めて接する南国風景に一同目を見張っているうちにバスはやがてホノルルを出て山道に入りました。途中ヌアヌ・パリの峠で下車、雲の中にそそり立つ緑したたるコオラウ山脈を背に眼下に展開するカネオヘ、カイルアの街の彼方は目も鮮かなこんぺきの太平洋、澄み切った新鮮な空気に何とも言えぬ南国の香りを満喫してまた乗車、峠を降りて海岸沿いに北進しました。一時間半ばかり立った頃「神殿だ」とわき上がる歓声に窓外に眼を向ければ十数年来写真に絵葉書に親しんで来たなつかしい白亜の殿堂、主の宮が今現実眼の前に荘厳なその勇姿を現わしたのであります。この感激、この喜び、太平洋のタージマハル、世界で最も美しいとこ

ろと言われるこの緑の園に立つその輝ける白衣の姿、思わず、勝ちを得る者は白い衣を与えられん、の聖句が浮んで、じっと見つめるのでした。

やがてバスはハワイカレッジのキャンパスに入り、男子寮と女子寮の二班に分かれて投宿することになりました。ハワイの会員たちが寄附して下さった珍らしい果物マンゴーが山のように積んでありましたが、各人両手にそれを戴き、親切なドームマザーから敷布、ブランケット、ピローなどの配給を受けたのですが、スマートなハワイの一女学生がかいがいしくドーム・マザーのお手伝いをしていたので、さすがによく見たら数年間中央支部の会員加藤姉妹であったのには驚きました。各個室を割り当てられ落付いてからシャワーを浴び女子寮前のカフェテリアで、豪華な夕食を戴き、気持ちよいクッションに夢の国ハワイの第一夜の夢をまどろんだのであります。

七月二十三日(金)

第一班は早朝七時半にじゅうたんのような芝生の朝露をふんでびよんびよんと近よってくる可愛い蛙や、先のとがったまたさわやかな朝の空にさえずるマイナバードの歌声を聞きながら、珍らしい大きなかたつむりに眼

を見張りつつ神殿へ八時からの第一セッション、アンドラス前伝道部長の涙の挨拶に一同胸がつかまって只々感激の涙にひたるばかりでした。この言い尽くせぬ感激の内に無事エンダウメント、永遠の結婚の諸儀式を終えたのでありました。子供の証人で結婚式をあげるどは？ 思わず妻と顔を見合せほほんだのでした。

第二班は午後からでありましたので、日が暮れるまでかかり、迫る夕やみの中にクッキリと浮び上がった美しい神殿、紅い噴水に一日の緊張の疲れをいやしたのでありました。この日から数日間にあたってセッションの行なわれている間、他班の兄弟姉妹が助けあって幼児を預り、ドミトリーのホールは一躍託児所に早変わりしたのですが、親を求めて泣きつづける誰の子かもわからない乳呑子をあやす兄弟の顔も誠に真剣そのものでした。二日目からは第二班のセッションも十時から始められたので、大川姉妹のお母さん始めハワイの兄弟姉妹が喜んでベビーセットをつとめて下さったのはほんとに助けられ有難く感謝のほかはなかった次第であります。

七月二十四日(土)

午前のセッションで始めて死者に対するエ

ンダウメントの儀式を受け、午後四時から子供とのシーリングが行なわれるのにまだ間があったので食事に帰ろうとすると、美しい白人のお嬢さんが車に乗せて下さった。降りる時に名前をお伺いしたところ、チャーチカレッジの総長のお嬢さんだと言われてびっくりしました。二十八日のパーティに前列に着席されたクック総長夫妻の横に坐っておられるお嬢さんを見つけ改めてお礼を述べた次第でした。四時迄にまだ一時間近く間があったのでポリネシヤ村に見学に行きましたところ入場料二弗もするのに、日本から来た私たちを知っていてか、どうぞどうぞと無料で大歓迎早速三世の娘さんをガイドに呼んでくれました。後でその方が神殿の受付の中西姉妹のお嬢さんのシャロンさんであったと分かりびっくりしました。ハワイサモワ、タヒチ、トンガ、ヒジ各島の部落に分かれそれぞれ民族のデモンストレーションや民族舞踊の紹介があり、いづれも目新しく素晴らしいものでした。驚いたことにハワイ部落からアポ姉妹が出て来て遊覧自動車に乗せて次々と部落を廻って下さった。また、かつて横浜支部で伝道したオフムキニ長老がこれに交って躍っていたのにはほんとにびっくりしてしまいま

した。夢中になって見ているうちに、もう四時迄に十五分しかなくなつたことに気がついて、どうしようかと思っているとシャロンさんがちゃんとお友だちを連れて来て下さり車 で神殿に届けて下さった。

四時から素晴らしい親子の結び固めの儀式があり、先ず長男と無事結ばれましたことを恵み深い神に感謝し二男以下まだ残つた五人

(ハウラワード部で)



の子たちとも出来るだけ早く結ばれたいと念願しました。

帰りに中西姉妹の御案内で昔、日本で改宗された奈良兄弟や高木兄弟を教えられその後ハワイに移って一生神殿で働かれ、ライエで亡くなられた現在、東京西支部会員の長尾姉妹の伯母さんの奈知江姉妹の墓を訪れ佐藤兄弟、奈良兄弟姉妹と共に墓前に花を捧げてくださいました。帰りにテンプル構内にあるテンプルドミトリーの佐藤兄弟の部屋をみせていただきました。

夜は私たち親子は、大川姉妹のお宅に招待されました。広い邸、庭園にはやしの木やマンゴーその他いろいろな果樹がうっそうと茂り、始めてやしの実の汁をのみ、またグアグアのジュスは誠に美味で、恥しさも忘れて四、五杯もいただいてしまいました。九十一才になれる一世のおじいさんが誠に元気で立派な日本語でなつかしうにいろいろ話をしてくれました。ハイスクール一年生の大川姉妹の弟さん三世のテリー君は、日本語が話せないのですが、にこにこして数年後には日本に伝道に来るのだと嬉しそうでありました。

七月二十五日(日)

兄弟たちは午前七時から神殿前に新しく建てられたステーク部センターで開かれた第三ワード部の監督会を見学しました。チャーチ・カレッジの教授であるヘーガン監督が第一、第二副監督及び書記、会計書記に報告と意見を求め、アンダーセン副ステーク部長がいちいち活発に意見を述べ提案をしております。八時から同じ部屋で監督指導評議会が開かれ、一方礼拝堂の方では他のワード部の神権会が開かれ、一般行事の後各神権グループに分かれ私はホールの舞台で開かれた大祭司のクラスに出席しましたが、家庭の夕のテキストで如何に子供の配偶者選択を指導し援助すべきかについて教師が十数名の会員たちに活発な意見を求めておりました。日曜学校では系図のクラスに出席しましたが、チャーチ・カレッジの教授が教師をしており、強い証を以て流ちょうな講義をしておりました。が途中で時間になり私たちは四台のバスに分乗してホルルのタバナクルで開かれる証会に出席するために出発しました。私は大川兄弟の自動車に乗せられて途中ハウラワード部の日曜学校を参観しました。十数年前に日本に伝道し、私も共にトラックティン

をしたことのあるハワイ人の宣教師スプロート長老が監督になっておられ、私たちの突然の訪問を非常にびっくりされ喜ばれました。このワード部にはサモワ人が多く大川姉妹(お母さん)が教えておられた子供のクラスも大部分がサモワ人、ハワイ人のようで、またサモワ人の老人のクラスには十組程の老夫婦が部屋一ぱいになって熱心に勉強しており参観する私たちをにこにこして迎えてくれました。

二時からタバナクルでヒンクリー長老管理の下に証会が開かれ多くの兄弟姉妹が涙の証をしました。四時から小松新伝道部長の歡送会が行なわれましたが、その時私たちは恵まれました。アンドラス前伝道部長の紹介でヒューズ、ステーク部祝福師にお逢いし、一時間近くにわたって面接し素晴らしい祝福を受けることが出来ました。夜はポールソンハワイ伝道部長に頼まれてミッションホームで七時半から開かれたファイヤサイドに出席、神殿訪問の証を致しました。アメリカ人、ハワイ人、日本人の数家族の会員及び求道者が集っておりましたが、ニューヨーク世界博の映写の後、大川マリオン姉妹、山田姉妹、私と三人が証をし、その後やさしいポールソン

部長御夫妻の歓待で楽しくリフレッシュメントを戴きながら語り合いました。幾家族かの求道者たちに少しでもお役に立てば幸であったと願いつつ、真暗になったヌアノ・パリー街道をライエ目指して帰途につきました。

七月二十六日(月)

午前午後二度のセツションに参加し、午後七時からステーキ部センターで開かれた指導者会に出席しました。私はコーリレーションの組に出席しましたが、ヘーガン監督がいろいろの質問によく答えて下さり、私がMIAの系図のクラスでどのようなテキストを使っていますかとたずねたところ、早速現在使用している最新のテキストを電話で家から届けさせ、一部下さったのはほんとに感謝しました。八時からのポリネシアン、カチュラルセンターのショーは実に豪華そのものの感激のついででした。

七月二十七日(火)

早朝英語のセツションに参加。また一方死者に対するバプテスマが執行されました。午後から死者の結び固めの儀式がありました。夜は親子二代にわたって日本に伝道されたクリスチャンセン兄弟の家に招待されました。迎えの車が来るまでチャーチカレッジの玄関

の広間で待ちましたが、その広間の上方両側に素晴らしい壁画が三枚ありました。

一つは一八六四年ジョージ・Q・キャノンがこのライエ神殿を建てる地として六エーカーの土地を買うことをブリガムヤング大管長に進言はじめて、このライエに来て祈りを捧げた時の光景であり、もう一つは一八二〇年頃ハワイに入って来た宣教師によってはじめてクリスチャンに改宗したカピオラニ皇女がまだ偶像ベレの神にとらわれているハワイの住民を覚醒させるためにベレの怒りを招くと恐れられていた禁断の実を食べキャラウエア噴火口の火に向かって石を投じ、エホバ神なれば、エホバに従うべしとベレに挑戦した絵であります。

火は寂としてしずまりかえっていたので民ははじめて偶像の目を覚まされ唯一神エホバは帰一したとのことです。

やがてクリスチャン長老の義兄の車でホノルルのクリスチャン家に伴われました。実に立派な家で見えたこともないような真白な毛の深いじゅうたんが部屋一面に敷きつめてありました。アンダーセン部長御夫妻及びアンドラス前部長御一家も御一緒でした。クリスチャンセン長老(息子さん)は五年程前、日本

に伝道し、横浜支部でも監督長老として、上手な日本語と深い愛をもって素晴らしい伝道をし、会員たちからも、慈父のように慕われた方でありましたが、お父さんとお母さんは今から四十三年程前一九二二、三年頃日本に家族同伴で伝道され、昔の写真、奈良兄弟や熊谷姉妹の若かりし頃のなつかしいいろいろの写真、また珍らしい東京大震災の写真などを見せて下さいました。クリスチャンセン長老の兄さん二人は日本で伝道中に生れたそうです。今回来る予定になっていた札幌支部の熊谷たまの姉妹が出発一週間ばかり前にけがをされて、参加出来なかったのは誠に残念でしたが柳沢北海道地方部長の取り計らいでクリスチャンセン長老のお父さんと四十三年ぶりに国際電話でお話されたのは劇的シーンでありました。

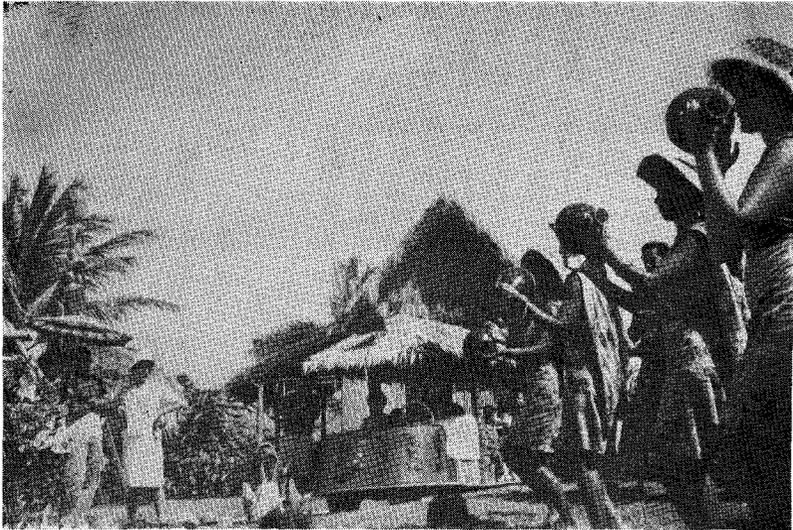
山海の珍珠をおなか一ぱい御馳走になったうえ、丁度武内長老御夫妻及び御両親も見えておられました。御一家の皆さんにすめられて周藤兄弟姉妹及び斎藤兄弟姉妹と共にその夜は武内家に宿めていただきました。武内家は前にハワイの神殿を建てられたウーリー部長の住んでおられた家を買われたそうで、実に大きなお邸で豪華な庭には百花爛漫

として芳香を放ち、コナツ、マンゴー、バナナ、パイナップル、ライチ、グアヴァ、リリコイなどなど、あらゆる果物が枝もたわに垂れ下り、日本から庭師を呼んで造られた庭園には池あり滝ありスイッチ一つで滝はしぶきを散らし溪流はさらさらと音を立てて緑林をめぐる誠にエデンの園もこのような園ではなかったかとのばれました。勿体なくも二階の十二使徒の間（十二使徒がハワイに采られると宿られる）に宿めていただきました。眼下にハワイ大学、遠くワイキキの海岸遙かにダイヤモンドヘッドを見下す素晴らしい眺望の部屋でありました。

七月二十八日（水）

武内長老のお母さんは私たちのために特に日本的な朝食を準備されようとしたが、庭園内でとれた新鮮な種々な果物だけを朝食としていただき、それで充分におなか一ぱいになってしまいました。現在東京の伝道本部に働いて

おられるマイヤズ姉妹に頼まれていましたので、この朝ハワイ島のヒロにおられるマイ



（ポリネシアン村で）

ヤズ姉妹のお母さんに電話しました。柳田姉妹がタバナクルの証会の時にマイヤズ姉妹の御援助のお蔭で今度、御両親の高木兄弟姉妹がハワイの神殿訪問が出来たと感謝されていたので、そのことをお母さんにお伝えしたらとても喜んでおられました。武内長老のお父さん、お母さんの御案内で、ハワイ大学及びイーストウエストセンターの周辺を見て廻りショッピングセンターでお土産を買っておひるは見事な、かつおの刺身を一ぱいに御馳走になって三時迄に神殿前ホールで開かれる証会に出席すべく一路ライエに向かいました。神殿の儀式を終えた兄弟姉妹たちの証は何れも素晴らしいものでした。最後に日本の教会堂建築に非常な貢献をされた武内兄弟が涙の証をされ、続ってお父さんが立たれて、奈知江姉妹の功績を讃え、お墓を訪ねたい人は御案内すると申し出られました。

七時からカフェテリアで歓迎大パーティが開かれ、さすがに広大な食堂も一ぱいになりました。この夜始めて、かねがね聞いていたハワイ独特の食物、ポイ、タロウ、ラウラウなどをおいしく戴きました。実に和気あいあいたるなごやかなうちに歓迎のプログラムは進められました。真先に立った素晴らしい

ハワイ人の歌手は少し前に私たちが神殿から歩いていると、わざわざ車をとめて乗せてくれた方で、その美声の歌に感激するとともに先程車の中で何もそのようなことをほのめかさなかつた奥ゆかしさに打たれました。それから、三年程前に日本に伝道したバルカセ長老の素晴らしいフラダンス、柳田姉妹その他の荒城の月の合唱などがあり、続いて突然アンドラス歓迎委員長の名により私と奈良兄弟は詩吟を吟じましたが、私が吟じ終って席に戻って来るとクリスチャンセン長老のお父さんは「自分にこの詩吟が吟ぜられたら思い残すところはなかつたんだが」と言っていて喜んでくれました。

更に北海道地方部兄弟姉妹の炭坑節その他の日本舞踊があり、最後にクリソード神殿長クック大学総長を始めアロハオエの歌を涙のうち合唱、感激のパーティーを盛大裏に終了しました。

七月二十九日(木)

早朝六時頃ライエの海岸で日出を仰ぎ見ながら海水浴をしました。実に感激的でした。午前九時、四台のバスに分乗して、クリソード神殿長その他多勢の人に見送られながら一週間の思い出の宿所、カレッジの寮を後に

しました。カフェテリアに働いていた人たちも皆出て手を振っておりましたが、この方々は早朝五時前より夜分十時過ぎまで私たちのために喜んで働らき、奉仕され夜も家に帰られなかつたのであります。白亜の神殿がだんだんと小さくなって行く時、また何時の日訪れることが出来るであらうかと思ひ胸がしばいになるのです。

途中ブロー・ホールで休憩し、岩穴から吹上げる潮柱をめでホノルルに入ってショッピングセンターで忙しく土産を買ひ、それから約一時間ワイキキの海岸で海水浴をしました。真白な美しい砂浜に白人、ハワイ人、世界各国の人々が娯せまじと日光を浴び、すぐ浜辺まで何十階の高層ホテルが立並んで、さすがに遠く外国の地に來たと言う感を深くしました。

いい色に日焼けた白人、ハワイ人たちがさも気持よさそうに波乗り(サーフィン)をしてるので、早速まねして見たらたちまちひっくりかえって波の中にもみくしやにされてしまいました。午後四時にナショナル・メモリアルセメタリ、パンチボールに行きました。全ホノルル市が一望に見える高台で、眼下に太平洋戦争、朝鮮戦争及び今回のヴェト

ナムでの戦死者まで加えた、万に及ぶ戦死者の墓が緑の芝生の中に整然と美しく並んでいるのは実に印象的でした。

午後五時タバナクルに到着し、三々五々にメンバーの家族に引きとられて分散して行きました。私たちは現在横浜支部で働らいておられるポキペラ長老のお宅に引きとられました。お父さんもお母さんも、見事にふとった方ですが、お顔はよくポキペラ長老に似ておられ、お父さんは三十数年間警察官を勤め、今は退職されておられますが、それでも早朝から夜遅くまで何かお仕事をされておられる様子でした。家に着くと、ハワイで八年間、神殿、及びチャーチカレッジなどのペインティングをされ、明日アメリカに帰国すると言うジョンソン兄弟姉妹老夫妻に紹介されましたが、日本で今建築に従事しているチニー監督やジョンソン監督もよく知っていると聞いて、私共が神殿に入ったことを喜んで抱きついて來られたのには面くらいました。

夜は正田兄弟姉妹の宅でパーティーがあり、アンドラス御一家、特にアンドラス姉妹のお父さん(祝福師)及びお母さん義姉のパーティー姉妹も可愛いお子さん二人を連れて出席しました。アンドラス姉妹のお兄さんのパーカ

一兄弟は船で働いておられ、丁度私たちがハワイへ着いた時出航されて、出席されませんでした。が二年程前、横浜に寄港された時わざわざ私の家を訪ねてくれ、いろいろ私の家のことをお父さん、お母さん、奥さんに語っておられたので皆さんがとて私たちをなつかしう下さり、私たちも何だか親戚に逢ったような親しさと、喜びを感じたのでありました。十年程前に私が仙台の支部長をしていた頃、仙台で伝道されたケコラニー姉妹がお宿めする渡辺離兄弟夫妻と共にまた山田副伝道部長御夫妻西原兄弟御夫妻も共に楽しい晚餐を終え、帰りにポキパラ長老のお父さんお母さんは新築、ほとんど完成したラナキラワード部の教会堂を見せてくれました。ポキパラ長老のお父さんはこのワード部の副監督だそうで、広大な礼拝堂ホール中庭キッチンなどハウラの教会堂と全く同一でありました。礼拝堂にきれいに並んだ長椅子を指して、これはパーカー祝福師が製作したのだと説明されびっくりしました。パーカー家はハワイの王家の出身であると聞きましたが、パーカー祝福師は大工を職業としておられるそうです。

七月三十日(金)

早朝ポキパラ長老のお姉さんが本日いよいよ帰国する私たちのレイにするため、大きな一袋の白いもぎたてのプルメリヤを持って来て下さったので、お母さんに手伝って生れて始めてレイづくりを経験しました。横浜支部会員八カップルに一つずつ十六の美しい白いレイをつくりました。お母さんはポキパラ長老がレイを食べたがっているだろうと午前中マーケットと一緒に買いに行く、十二時半にアンダーセン部長夫妻と共に、ジェット機一台借切って出発する大部分の聖徒たちを送りにホノルル空港に向かいました。待合室で送のフラダンスが盛大に始まりましたのでつい私もつられて踊り出しましたら、レイをかけてくれるやらパイナップルを食べべれと差出してくれるやらすっかり歓待されてしまいました。一行は飛行機の前で記念撮影をして搭乗間もなくモルモンジェット機は爆音も勇ましくじっと見送るハワイの兄弟姉妹の視線のうちにはるか海上の青い大空の中へその姿を消してしまいました。

私たち横浜グループは小松新伝道部長御一家及び半年ぶりで大任を果して帰国される、佐藤竜猪兄弟、山田副伝道部長一家と共に五

時半に出発、それまで少し間があったので今時は議事堂となっているかつての王宮を見学に行きました。一階にカメハメハ一世始め代々の王家の肖像画及び王座が展示してあり、二階にはアメリカの統治下になって以来の歴代の知事の肖像画があり典型的な美しいハワイの若い女性が親切に案内説明してくれました。

五時半クリソード神殿長、アンドラス御一家、武内御一家その他多勢のハワイの聖徒たちに見送られつつ、レイの中に顔ももうずまってしまった小松新伝道部長夫妻と共に機上の人となりました。時計を五時間近く遅らせたので何時までたっても日が暮れず、六時間程たってやっと暗くなり一日とばして三十一日(土)となり夜八時半無事羽田空港着、小松新伝道部長歓迎ののぼりが先ず大きく目につき大勢の兄弟姉妹に迎えられ「お母さん、お父さん」と呼ぶ子供の声に十日間の新婚の夢を破られたのです。

この度のハワイ神殿訪問は実に何物を犠牲にしてもなお余りある貴重な体験であり、いろいろな種を異にする兄弟姉妹がさながら赤白、黄色に咲きほころぶハワイの花のように、それぞれ美しい特長を發揮して一大家族として

神の主園を建設しているその姿は、誠にうるわしく、芳香を放って咲き乱れる種々の花、美味をきそいろいろな果物と共に誠にエデンの園もかかるところにあらずやとしのばれ、日本に帰って来る私たちはさながらエデンの園を追われ額に汗して働けとこの地上に降って来た。アダムとイヴではなかるうかとの感を深くしました。

またアンドラス歓迎委員長をはじめハワイのメンバーたちが私たちが歓待した深い愛情と心づくしには何とお礼のことばを申し上げてよいか只々感謝の涙にむせぶばかりであります。

これから私たちが神殿で身につけた強い証詞をもって、主のため教会のため働くことによつてのみ、広大な御恩の万分の一なりと報いることが出来るかと思ひます。

またこのすばらしい神殿訪問計画をたて、推進しついに完成させられたアングーセン伝道部長御夫妻に心から感謝致す次第であります。

遠からずまた第二回目の神殿訪問計画が立てられると思ひますが何卒一人でも多くの兄弟姉妹があのパラダイスハワイの神殿に入つて、真の証を身につけ貴重な体験をしてこら

れるよう、そのためにどんな犠牲を払っても惜しくないことを致して断言し、愛する兄弟姉妹の神殿訪問をおすすめる次第であります。



故奈知江常子姉妹の墓碑を囲んで 1938年
建立当時。

そして只今より旅費と共に先祖の救いの儀式のための系図家族の記録を作成提出されるように切望し、また今回訪問された人もまだ提出してない親類（直系傍係を含め）のために作成し提出されるよう、併せて希望致します。

このように皆が系図探求、死者の救いに努める時、この日本の地にも神殿の建つ日が一日と近づいて来るでありますよう。

主の宮居を訪れて

渡 辺 躰

歴史的な神殿訪問を今終えて私の心は大いなる感謝と感激と感動とで充たされており、たしかに神は生き給い、私たち人類を愛しており給うと証しすることができます。また福音が真人々に愛と平和と祝福とをもたらし、私たちを高きへ——神の御許へ——と導くものであることを身をもって証し致します。

七月二十二日の夕暮、私たちは各地より東京中央支部に集り、すぐさま空港よりハワイへ発ち、機内でほとんど眠ることもなく、本当に疲れ切った状態でホノルルに着きました。しかしハワイの聖徒たちの心からなる歓迎をうけて私たちは全く生き返ることができ、新しい息吹をすら全身に感ずることができました。久し振りで会うなつかしい人々と私たちはしっかりと抱き合って再会を悦びました。その光景はさながら来世で愛する人々に再び会う様を想像させるに充分なものでありました。福音のきずなで固く結ばれた兄弟愛——それは実に美るわしく気高いものであります。翌二十三日はいよいよ私たちの栄あるエンダウメントと夫婦の結び固めの儀式をうける記念すべき日でありました。朝早く目をさました私は静かにこれまでの伝道部の歴史と自分自身の歩んできた道とを振り返り、その中に主の祝福と導きとが豊かにあったことをよく感ずることができ、思わず知らず嬉し涙にむせんでしまいました。とめどなく湧き出る涙を押えながら、福音の回復されたこの末日に生をうけ、真の

教会の会員となることができ、更に栄に進むに必要な主の宮居の儀式に与り得ることを心より感謝しました。そして同日の午後、私たちは神殿の扉を開いて中に入り、神よりの大いなる賜——エンダウメント——をうけ、永遠の夫婦として結び固められました。その悦び、感激、感動、感謝の念は到底筆や言葉で表すことのできないのであります。聖なる神権のガーマントをまとい、白装束に身を固め、次々と神殿の各室を通り過ぎて行く時、神の臨在を本当に身近に感ずることができました。たしかに聖き神の宮居に主がその民を訪れ給うことは真実であります。私は聖壇にぬかずくことを許された一人として今心の中で考えることは、まず日々自らが変わり、神に近ずかなければならないということであり、またこの神殿の祝福をあらゆる人々に分ち合いたいと言うことでもあります。私たちは主を始め、アンダーセン部長、内外の教員、宣教師の皆様方の並々ならぬ御好意とお助けとにより、素晴らしい恵みをうけることができました。その同じ祝福を皆様が早くおうけになることができるように何なりとも悦んでほしい気持ちで一杯であります。幸いにして新任の小松伝道部長は一年半乃至二年の内に再び神殿訪問をすると言明なさいました。私たちはその際にも多くの兄弟姉妹が聖なる宮居の儀式に与り得るよう力を尽したいと考えております。何となれば神殿の祝福こそ、今伝道部の会員たちに最も必要なものであるからであります。神殿に詣でることにより私たちは更に神に近ずき得、もっと大いなる神の王国にかかわるビジョンを持つことができ、英智、すなわち真理を正しく理解して踏み行なう力を得ることができるのであります。まことに神殿は祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄光の家、秩序の家、神の家であり、私たちがそこで主と

交した神聖な誓約をことごとく守り、忠実であるならば確かに豊かな恵みをうけて、この世にあつても来るべき世にあつても全く幸福な日々を送ることができ、終りの日には高く挙げられて永遠の生命——すなわち神の現在営み給うような生活に入り得るのであります。願わくは主の祝福が私たち一人一人の上にあつて次回の神殿訪問の準備があらゆる面にわたつてよくなされますように、また皆が心一つにして小松新伝道部長を全く支持してこの地に神の王国が完全な姿で早く確立されますよう心より主なるイエス・キリストの御名を通して祈つて止みません。アーメン。

数えられぬ主の恵み

菊 地 良 彦

誠に幾千幾万の人々の心は、天より注がるる祝福によりて真に喜びを覚え、またわが僕たちがこの宮居において授けらるるエンダウメントによりて喜びを覚えん。而してこの宮居の名声は外国までも拡がらん。これが民の頭に注がるる祝福の始めなり。誠に然り、アーメン。教義と聖約百十章八〜九節

これは一八三六年四月三日、カートランド神殿に主イエス・キリストがジョセフ・スミスとオリヴァーカウドリに親しく現われたまひ、またジョセフスミスは主に神殿を嘉納し、古えの偉大な予言者たちモーセ、エライヤス、エライジャが世の人々に完全な祝福を得させるため宮居を訪れたその日に、主が予言者ジョセフ・スミスに

与えた啓示であります。

見よ。一つの驚嘆すべき業、まさに人の子らの上に現われんとす教義と聖約四章一節

主の御言葉は正しく成就し、こしきゆかしき東洋の国、大和の地において現われたのである。一九六五年七月二十二日、赤児を含む百数十名の神の子等がハワイのライエにある聖き神の宮に出発したのである。次の日二十三日に天より注がれた祝福とエンダウメントに喜びを覚え、一同感嘆し主の祝福に感謝し泣いたのである。

夫婦は神権の位、すなわち、新しく永遠の結婚の誓約に入り、ひとときは確かなる予言の言、聖き神権の権能を通じて啓示によつてまた予言の「みたま」によりて永遠の生命に入ることを結び固められたのであります。

同じ権能を通じ小さき子等がその両親に結び固められ（別離孤独することなく）、ある者はまた先祖に結び固められたのであります。あるものはすでにこの世を去りし同胞、先祖、子等のために身代りのバプテスマを受け、エンダウメントをも受け、死者も参加したすべての聖徒と同様神の子羊の教会の正会員としての祝福を得、喜びを共にしたのであります。

「誠にまことにわれ汝らに告ぐ、汝らわが律法を守るにあらざればこの栄光に達するを得ず」。教義と聖約百三十二章二一節に述べられてある如く神権の律法を守らば遙に高き光榮すなわち最高の栄に進みあらゆることに光榮（最高完全の光榮）を得ると約束の聖きみたまにより結び固められたのである。

創世の前より天父によりて定められたる数多くの約束をみたまのため多くの事柄が聖徒たちに教えられたのである。

「すべてわれによりて祝福を受けんと願う者は、その祝福を与うるために定められたる律法と条件を創世の前より定められたるままに守るべからず。この新しく且つ永遠の誓約に就きては、こはわが最高完全なる光栄のために定められたるものにして、わが最高完全の光栄を受くる者はこの律法を守るべからず。」(教義と聖約百三十二章五、六節)「およそ最高の栄に進むを得て生命をつずくるに至る門は狭く、道は細くしてこれを見い出す者は少し。そは、汝らの世においてわれを受け入れず、またわれを知らざるに由る。されど、もし汝らこの世においてわれを受け入れなば、汝らわれを知りて最高の栄に進むを得ん、すなわちわが在るところに汝らもまた在らん。こは永遠の生命なり。すなわち、唯一の智慧ある真実の神とその神の遣わしたまいしイエス・キリストを知ることなり。われはその遣わされたる者なり。故に、汝らわが律法を受け入るべし。それ死に至る門は大きくしてその道は広し。而して其所より入る者数多し。彼らはわれを受け入れず、またわが律法を守らざるによる。」(教義と聖約百三十二章二、一、二、五節)この聖句の持つ真意を参加した聖徒たちは心に強くきざんだことでありましょう。また天の父なる神、唯一の智慧ある真実のお方の事業が絶ゆることなく続き、かくして御業と誉れが父に在るように働き精励従順にならうと決心したのである。

神が霊の子等にたくした資質と能力を涵養しかつ開拓し、練磨し調和的に発展させてこの世の安易な目標に妥協することなく生活するよう決心したのである。また彼等の胸の中には潜在能力を多角的に体现すると同時に窮迫したこの末日の状態の中で不孝不徳なことよりぬけ出て、刻苦勉勵に切磋琢磨して、より高い高次化する生活

をしようとする源が誘い入れられたのである。

「そもそも創世の以前より天において定められたる一つの交らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり」。教義と聖約百三十三章一八、一九節。この約束がつけるが如く教えを守ると同時に、世の塩としてすべての人々の前に模範的で真摯な態度で生活するように決めたのである。「人々わが永遠の福音に召され、また永遠の誓約を結ぶ時は、その人たちは世の塩にして人に味をつくる者と認めらるる」(教義と聖約百三十三章三九節)とあるからであります。

また彼らは神にもっと敬虔な祈りをひそかにささげ、又家庭よりささげるべきであるを知ったのである。「熱心に求め、常に祈りて信ぜよ。もし汝ら正しく道を歩み、汝らの互いに結びたる誓約を憶えなば、何事も結局は好都合となるべし」(教義と聖約九十章二、四節)とあるからであります。

主イエス・キリストの長き弟子であるにふさわしくいつでも喜んで生命を捨てること、いや、生命をかけて、心血を注いで精魂をこめて働く決心をしたのである。

そして彼等は自分にとって最も価値あることは、今の世の人々に悔い改めて人々を主に導き、祝福を共にすることがいかに大切かを理解したのである。からは中心から、この生命をつずくるに至る狭き門、細い道、すなわち救いと昇栄の見出しにくいこの門を見出したかのように数多くのことがらを主より給わたったかのように数多くのことがらを主より給わたったのであります。また、ただ漫然と生きるのではなく常に高邁な理想をかかげ、真摯な態度で生活することが

この末日に生を受けた者たちの責任であると知ったのであります。かれらは、これから神殿を訪れるであろう、主に忠実な僕たちと神の王国の実現へと意を向けられるであろうし、シオンの大事を起してこれを確立せんと求めるであります。この日の本の国、日が降るこの地に、輝く福音の旗をかかげる大きな力となるにちがいない。

回復された神の教会、末日聖徒イエス・キリスト教会がもつ神の王国のあらゆる完全なプログラムを始める原動力となるであります。義しき人々はすべての地より集められ、またすべての国民の中より集められ、永遠の喜びの歌を唱いてシオンに上り来るのを迎えるであります。かれらはこの末の世の一つの大きな目的である世界の四極より義しき人々、またイスラエルの血を持つ散乱せるヤコブの子孫を押し集める手助けをするであろう。

地のいや極までも逐い払われたるすべてのイスラエルの家の残れる者たちが真理を覚り、かれらのメシヤを信じ、圧制を免れて、主の御前に同胞と喜びを共にするまで、すなわち彼等の先祖がエホバと誓約をなしたことを憶え、その誓約が完全に成就する日まで彼等の働きはやむことがないであろう。この王国が大いなる山となりて全地をあたかも川水が深谷から流れ出、いつの日か大海に流出し大きく広がるごとくに充たされるその日まで働き続けるであろう。ちようと神殿にて聖徒らが諸儀式を受け、喜びに泣いているときに、私の胸の中には次のような聖句が思い出された。

山々は喜びの声を挙げてよ。
汝ら谷よ、皆声高く叫べ。

河よ、小川よ、谷の流れよ、

喜びの声を挙げて流れ下れ。

森よ、野の樹よみな主を讃えよ。

堅き巖よ、喜びに泣け。

日よ、月よ、暁の星よ、共に唱え。

神の子らよ喜びの声を

挙げて叫べ!!

(70頁より)

北海道の地方部センターはすばらしい物が出来るに違いないと思
います。なぜならコンクリートや積み重ねるブロック一つ一つに会
員たちの強い信仰がしみ通っているからです。

では皆さん、北海道の地方部センター、期待していてね。

ハワイ神殿の儀式に出席して

奈良富士哉・源子



顧り見れば一九〇一年日本伝道部開設以来六十五年、私はハワイ神殿訪問を希望してから四十一年の歳月が過ぎ、一四一名の兄弟姉妹とともに今回の儀式に出席しましたことは最大限の感激で日本における本教会の歴史上大なるエポックといはざるを得ません。

これに伴い私が数々の感謝と又感激の先ず第一は、一九四五年終戦の年の十一月から一九四八年三月日本伝道部再開迄の其の間進駐軍の方々(クリソールド、エバンズ、堀内、サンダーソン、エブリー、ラーセン、

スチッグ、小松、有馬、荒垣、高橋、池田、二木、津嘉山、和佐野、オーチャード、ハーモン、胡子、中地、赤木、荒内、玉井、秋田の各兄弟、園田―現在尾形夫人―引田、福永の各姉妹等)の御援助によりその内の数名にハワイでお逢いしたことです。

第二は、一九二四年八月日本伝道部閉鎖宣教師をしておられたクリステンセン兄弟に四十一年ぶりでお逢い出来ましたことは実に夢のようです。私のことをよく覚えて下さってびっくりいたしました。

第三は、一九四八年三月日本伝道部再開の初代伝道部長が現在ハワイ神殿長としてお目にかかることが出来意義深く、すばらしい儀式を受けたことです。

第四は、今回新たに北部極東伝道部長として聖任された小松長老はかつて進駐軍の一軍人として日本に来られた際私がクリソールド海軍中佐より命を受けて主任長老としてささやかながら東京麻布六本木の東洋英和幼稚園内の一室を借りて集会してました時一九四六年六月から九月迄毎日日出席されて指導を惜しまなかった小松兄弟です。誠に奇遇と申しましょうか。

第五は、日本伝道部(現在北部極東伝道部)再開後私たちのため多くの宣教師が来日され、その中で元伝道部長アンドラス長老を始めとしてレイ・プライス、ハンセン、ホーレット、アーレン、陳、金綱、池上、クリステンセン(息子)各元宣教師及びアンドラス、ヤング、五十嵐、沖本、ケコラーン各姉妹とお逢い出来、又ハワイ、ホノルル在住の檜浦、尾形(旧園田)両姉妹から特別に歓待を受けたことです。

第六は、一九二〇年頃は日本人信者として初めてハワイ神殿に行か

れ一九三八年彼地で昇天された奈知江常子姉妹（八十三才）（私
たちは彼女にモルセン経典の講義を日曜毎に聞きました）のお墓
に詣ることが出来ました。

第七は、極東地域の総監督であられるヒンクレー長老が日本伝道部
再開前の信者即ち桂兄弟、高木兄弟姉妹、奈良兄弟姉妹と一緒に
ホノルルの大教会の庭園で記念撮影をしたことです。

その他ハワイ在住の多くの方々の真心あふるる歓待に対してただ感
謝と感激あるのみでした。

最後に日本の地にも神殿が献堂されるよう私たちの信仰を高めた
いことと、今回斯様な計画がアンダーセン伝道部長の大なる功績で
あるとともに部長会其の他幹部方々の努力の賜であることを感謝す
る次第です。

ハワイ神殿における永遠の結婚

水野圭

待ち続けた七月二十三日、ハワイに到着。翌日素晴らしく空気が
澄んで明るい朝の陽が輝やいている時神殿にはいり自分自身のエン
ダウメントを受けました。その後永遠の結婚の儀式をおごそかに受
けました。この日は感激の連続で姉妹と共に目を赤くはらせてしま
いました。思えば長い婚約期間でした。

昨年十月九日婚約当初私の神権は祭司でしたので何時長老になれ
るか判らず神殿訪問等は思いも寄らないことでした。婚約後しばら

くしてから伝道本部へ行きアンダーセン伝道部長さんの所へ挨拶を
申し上げました。その時姉妹と本部へ一緒に行く途中どうしても神
殿へ行きたいと話し合い、具体的に計算してみました。その時は取
らぬ狸の皮算用的な計算でしたが、大体の見通しをつけ伝道部長さ
んに神殿へ行きたいとお話ししたところ、素晴らしいことです。是
非行くことができるように神に祈り、準備しなさいと勇氣づけられ
ました。私たちはこれで行かれる見通しがついたと思いい大変うれし
かったのを覚えております。しかし現実問題として多くの難関があ
りました。まず親の反対があり、次に経済的問題とがありました。
この関門を通り抜けることは大きな課題となつてぶつかつて来まし
た。しかしこの問題も種々曲折がありました。私たちは常にお互い
を理解し、あらためよく話し合い、又二人は共に心を一つにして主
に祈り続けて来ました。私たちが神殿へおもむく頃にはもう親の反
対はなく、むしろ援助と協力により何の不自由なく祝福されて神殿
において永遠の結婚の儀式を受けることが出来たことは、誠に主の
大いなる助けと恵みによつたのでした。心から感謝しております。
私たちはこの大いなる儀式により、これからの将来の先々も二人
ではなく一つとなり、一体となつて神様の御意思である実際の一体
の意味を考え、神様の誠命を守るために日々前進し努力して行き
たいと考えております。

この地に一日も早くステーキ部が出来、主の宮居（神殿）が建て
られるように心血を注いで行きたいと思つております。私はこの教
会が真の教会であると心から証詞します。又神は生き給ひ御子イエ
ス・キリストも生きておられることを証詞致します。

全部イエス・キリスト様のお名前によつて記しました。アーメン

ハワイ神殿訪問讃歌

柳田 聰子

シオンなりこれぞわれらがシオンなり兄弟姉妹等の心温かく

懐しき旧き伝道部長達我等迎えし眼の優しさ
よ

真東まひがしの海に向いて建つ神殿みやは朝日をうけて白く輝く

音信おとずれも絶えて遠かりし旧き友は今かけよりて
わが肩を抱きし

あくまでも明るき中に寂として清き神殿は我等を迎う

わが肩にレイかけて抱きいだ口吻くちづつせり十年ととせ離れて
今会う友は

神訪とい給う神殿に入り驚きぬかかる清さを我は知らざりし

相別れ十年あまりも経し人等眼前にあり我等
迎えて

帰り来ていよよ心はかけりゆく清き神殿よ温き友よ

東中央地方部評議員をご紹介します

先月号では東中央地方部で新たに組織された地方部長会を紹介しましたが、今日はそのもとに働く東中央地方部評議員会をご紹介します。

「伝道部内地方部及び支部の手引」を見ますと、地方部評議員会を次のように定義してあります。「伝道部内の地方部でその会員数並に地方部出身指導者の数において、ステーク部に準じた活動のできる地方部においては、メルケゼデク神権六人、またはそれ以上（必要に応じて十二人まで）を以って地方部評議員会を組織する。この評議員会は地方部支部、地方部に組織された神権定員会、グループ補助組織などの活動を指導することに於いて地方部長会を援助する。

評議員会がその機能を充分に發揮できるのは地方部長会から権限を委任されているからである。」

それではこの評議会々員はどのような責任を負っているのでしょうか。具体的に説明すると次のようになります。

一、地方部長会を援助すること

(イ) 地方部

(ロ) 支部

(ハ) 神権定員会

(ニ) グループ

(ホ) 補助組織

以上地方部長から委任を受けて援助をすることが出来ます。

二、地方部長以外に会長を持たない評議員会は地方部長が出席しないかぎり、開かれないこととなります。

三、任務は地方部長より定められる。

四、秘密を守る。

例えば家族友人であっても、地方部内での必要な秘密は守らねばならないとされています。

五、一定期間支部に配属されること。

当地方部では、現在一ヶ月間づつ交代で、支部配属されています。

六、地方部長よりのメッセージと指令を支部に伝達すること。

七、監督と任務

(イ) 日常業務

各支部を訪問した場合、支部会員をほげます。

(ロ) 神権活動

(ハ) 相談役

すべてのことに関して精通していることが要求されています。

(ニ) 一支部との連絡活動

会計検査などが含まれます

(ホ) 建物と土地の監督

丹羽三吾兄弟

担当 フェロシップ

連絡先 東京都豊島区長崎東町一―九九五

電話(九八三) 三六二三



丹羽兄弟と一度でも話し合ったことのある人なら、彼の特徴ある風貌と個性の強い弁舌に興味を覚え、必ずその人となりを深く知ろうという気持をかきたてられるであろう。長くそして波瀾に富んだ人生経験は丹羽兄弟そのものの歴史であり、哲学であるといえよう。その彼がバプテスマを受けるにあたって得た証は、まことに強烈なものであったことを折りにふれて、人々に語っている。

現在新聞雑誌販売店を経営し、日夜美登姉妹とともに、本当に精力的に働いておられ

る。東京北支部出身で、八年前一月一日にバプテスマを受け、北支部支部長など歴任。

田中英男兄弟

担当 扶助協会

連絡先 東京都練馬区春日町一―二六一〇

電話(九九二) 八八五六



おとしに似合ずといったら失礼にあたるかもしれないが、とにかくスポーツマンである。丹沢の岩場を登ったり、奥秩父の山々を歩き廻り、夏になれば水泳の達人でもある。今でも時折プールで水泳を楽しまれるらしく、日焼したお顔はまったく健康そのもの之感がある。

御家族は、伝道部MIA会長の佐藤襄二、栄子夫妻とお孫さんである。

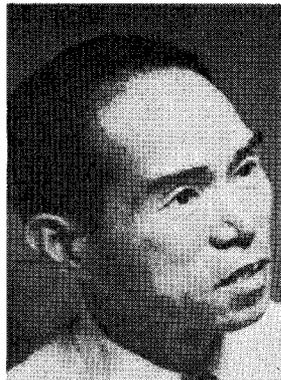
昭和三十二年十一月二日にバプテスマを受けて以来、北支部第一副支部長、地方部第二副地方部長を経て、評議員に聖任された。お仕事はマネキンの製造とその販売である。

稲垣高義兄弟

担当 建築計画

連絡先 東京都豊島区長崎三丁目一ノ十七

電話(九五五) 八三八八



稲垣兄弟は技術を売りものにする洋服屋さんのご主人である。地方部扶助協会副会長の敏子夫人をはじめ英子、聖子、孝治、雄三、達雄、義信以上七人のまさしくモルモン家族である。

「誠実」という言葉があつて、その言葉をだれかに当てはめようとするなら、必ず彼

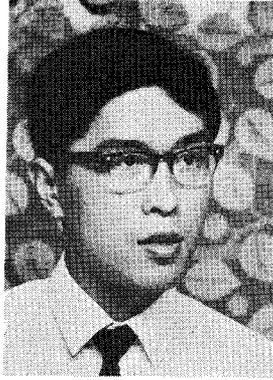
を思い浮べるであらう。静かで、それでいて芯の強い兄弟である。

一九五八年七月十三日にバプテスマを受け北支部支部長を経て評議になられた。

佐藤 泰生 兄弟

担当 ホームテイーチング

連絡先 東京都港区青山高樹町三



おそらく器用さにおいては評議員中随一ではなからうか、オルガンを奏で、コーラスを指揮し、絵を描き、演劇を愛し、無線技術では国家試験に合格した免許まで持っている。

「モルモン経」「教義と聖約」の本譯者である佐藤竜猪兄弟の子息である。現在国鉄に勤めるサラリーマンで、美奈子姉妹とはこの春結婚したばかりの新婚ホヤホヤである。

地方部音楽委員会を長い間育て、中央支部第二副支部長、伝道部アロン神権指導などの責任を今までにはたしてきた。

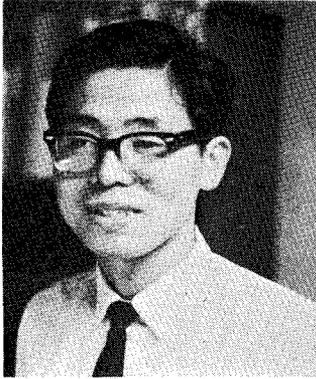
バプテスマは一九四七年七月六日であるから、十八年間の教会生活を経てきた訳である。

児玉 栄治 兄弟

担当 日曜学校

連絡先 東京都太田区下丸子三八六

第一くろしお寮



児玉兄弟は松本支部出身でミカド電機に勤めるエンジニアである。才能豊かな人で、いろいろなタレントに恵まれている。コーラスではテノールを歌うのが得意である。一九五

九年三月二十二日バプテスマを受けて、伝道部日曜学校会長会、地方部日曜学校指導者をへて、評議員となる。

温厚な人柄を表している彼の日常生活からはなかなかわからないだろうが、正しいと思つたことなら、どこまでもやり通すという強い意志がその奥に秘められている。そんな雰囲気をもった人である。

福田 真 兄弟

担当 アロン神権

連絡先 電話(八五二)七三三一勤務先



福田兄弟を紹介するに当って、まことに困ることがある。なぜなら彼を代表する特徴があまりにありすぎるからである。外面的にみればいつもフアイトに満ち、そして大きな

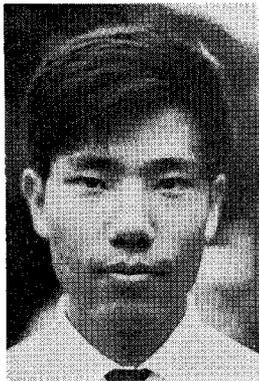
声で（背の高さに反比例して）人々をリードする。教会の指導者の見本みたいなものであろうか。そしてよくよくつき合っていると、相手の身になって相談ののってくれる若い兄弟たちのよい兄貴である。欠点といえばまだ独身生活が楽しいらしくらいである。勤務先は三菱レーヨン代理店で石倉樹脂といい、有能なセールスマンであると同時に若い会社員たちのリーダーでもある。一九五二年バプテスマを受け地方部副部長など歴任。

岡田 松雄 兄弟

担当 音楽

連絡先 東京都南多摩郡多摩町桜ヶ丘四一

七



この紹介記事を書くために家族を紹介してくださいと質問したらこんな答えがかえって

きた、「父と母と姉夫婦、それに猫二匹に金魚二十四匹程度」……。外見には見られないユーモアの持主であることがお判りであろう。一九五九年の四月に新潟の海岸でバプテスマを受け、現在は東京北支部に在籍している。東海大学工学部に在学中で、武蔵工大原子力研究所に毎日通い、原子炉と取り組んで目下勉強中の若いホープである。若い人をまとめることがうまく、よくコーラスグループなどを作って活躍している。当年二十三才

上条 勝弘 兄弟

担当 系図



兄玉兄弟と同じように松本支部の出身である。ものすごい近眼で、眼鏡を取ったら目が廻って倒れてしまうという。その彼が一年余り、建築宣教師となって、目のくらむばかり

の高い所に登って平気な顔をして仕事をしていたものである。評議員随一の建築宣教師出身で、その豊富な体験に、期待がかけられている。

系図担当で、松本支部のころから系図一本やりで、地方部のために伝道部のためによく活躍し、今回の神殿行きの系図探求では彼の助けを受けた会員が多いことだろう。

小林 義生 兄弟

担当 地方部非専任宣教師、フェローション

連絡先 三鷹市井の頭三丁目三十二番八号

磯方

なんとも特徴のない人物であると、ご本人はいうが、さて他の兄弟姉妹はそれを認めるだろうか、どうか。名古屋支部出身でバプテスマは一九六〇年九月十八日である。そして彼の自慢は、犬山城の下を流れる木曾川の水でバプテスマを受けたことであるという。

伝道部日曜学校会長、地方部フェローション委員などをへて評議員となる。最近結婚したばかりで、愛妻家らしい。毎日のように夜おそくまで、地方部の仕事をしつと、ときどき早く家に帰りたい帰りたいともらしている。



支部だより

岡山支部

山、海、川に近い岡山支部は、非常に環境に恵まれているといえますよう。

岡山県というところは昔は池田藩主が支配していた城下町として有名です。

しかし今は、岡山の若い人々がぞくぞくと大阪や名古屋や東京に出て行きます。まだまだ封建制が残っているのか東京や大阪と大分ちがっています。それが困難な問題を起こしていますが、別の面から見ると良い点もあります。宣教師が他の教会の牧師か神父以外に、ほとんど町で外人は見られませんが、画期的計画を實行しています。たとえば、英会話からあま

り求道者が得られないので、岡山では英会話は夏休みに入り、八月、九月と宣教師たちは英語のクラスを持ちません。家族に教えるようにしています。一方二ヶ月前から岡山支部として又、宣教師として働いている磯村長老を中心にして、指導者を養成するための「リーダーシップ」、「教師養成会」、会員が伝道するように特別計画された「ふやそう会」福音勉強会等、今実際に行なっています。又ホームテイチングの第一歩として「伝達委員会」がもうけられ、伝達ラインを作りました。委員長に谷本みや子、太田昭江です。岡山支部の支部長は、特に扶助協会には心配し「支部が進歩するかいなかは、扶助協会が進歩しているか、いなかにかかっている」と彼は言っています。扶助協会の組織と内容の充実に助言しています。まず岡山の扶助協会のメンバーを紹介しましょう。

会長 池田澄子、 第一副 斎藤京子

第二副 桐山隆子、 書記 大脇可久美です。今、会長会ががっちりしています。

日曜学校は岡山の横綱大内貞義兄弟第二、岡山のポーブ、小松忠兄弟書記は熱心党の山内弘子姉妹教師は、桐山、斎藤、成林

がつとめています。成林兄弟は第一副支部長

としても又教師としても頑張っています。彼の職場は、福山で教会から遠いので、今度岡山に職場をさがすようにはりきっています。

より
支部
子供日曜学校の責任者と教師は、岡山の三羽ガラス、西岡玲子、阿部英子、谷本都の三人です。指揮者は鶴海姉妹、オルガニストは保都満喜子姉妹、名古屋の兄弟、よんでる？ M I A の Y M M I A のリーダー西支部から来た猪原貞之兄弟、Y W M I A の会長平井由子姉妹、副会長西岡玲子姉妹、書記片桐誠子、活動担当川上いく、姉妹によって構成されています。岡山一つの問題は、建物が小さいことと少々きかないことであります。支部長曰く

「もし、あなたがたは、すべての誠命を忠実に守り、支部をあなたがたの家のように愛するならば、神様は大きな建物を与えて下さるでしょう。しかし支部を愛さず、建物がきたなくとも、無感心であり、奉仕することに躊躇するならば、なんで神様は聖い建物を与えて下さるだろうか、決して与えて下さいません」と約束した。七月二十四日の開拓者記念日は、池田光政が建てられ初の民間教育所として提供された閉谷学校へハイキングに行きました。水泳ゲーム、歴史の勉強、等、たのしんで帰りました。この写真は着いて、あつい

あついと言っているところです。

旭川支部

全国の兄弟姉妹、今日は。旭川から再びお便りします。

七月になるとさすがの旭川も暑い日が続くようになりましたが、全体的にはやはり昨年のように涼しい夏のようなようです。東京の方々はうらやましいとお思いでしょうけれど、旭川ではとても心配です。

六月二十四日、木曜日には、M J A で音楽祭を開きました。これらは M I A の音楽のクラスに入っている人達が中心となつて、ごじまんのノド、ユーモアに富んだコーラスなどを発表し、又頭の良いところで曲名を当てるゲームなどをして、楽しい夕べを過ごすことが出来ました。

中でもとてもおもしろかったことは、和田弘とマヒナスターズをもじつて又、彼らのレコードをちょいと拝借して、○○○○子とマヒナスターズと名付け、レコードと姉妹の意気の合った？ コーラスを聞くことができたことです。名前がとてもしばらしいので、皆はどんなものかしらと期待しておりましたが、聞き終つて感心することしきり。

又、変つたところで音楽とは歌うことばかりが能ではないということで Y W M I A 第一副会長の神野姉妹の指導により、花笠音頭、ソーラン節、など日本民謡のおどりを習ったりしました。

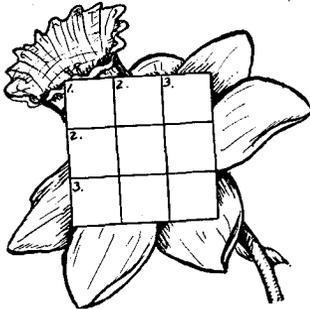
次に七月十日のニュース。現在、北海道地方部の中心である札幌に地方部センターの建築がなされつつありますが、旭川支部では、これらの建築のために少しでもお手伝いをしたいという希望から、七月の九日旭川を出発し、十日、土曜日の一日を地方部センターの建築現場で労働奉仕することになりました。この日、参加することの出来た人数は大変少く、兄弟四名に姉妹四名でしかたけれども、現場の方々は大変喜んで下さり、又良く仕事を指導して下さいましたので、旭川支部の援軍も大変はりきつて、普通ならばバテてしまいそうな暑い日でしたが、土と汗にまみれながらも私たちの折りの家の建築のために喜んで一日を過すことが出来ました。

旭川支部の会員たちで、この日参加することの出来なかつた人は、それぞれ自分の都合の良い日に建築に参加してくるのだと、大変はりきつております。

ENGLISH FOR SEPTEMBER

Which Month?

My first is in Fred but not in Harry.
 My second is in Ned but not in Barry.
 My third is in Ben but not in Dean.
 My fourth is in Ray but not in Gene.
 My fifth is in Louie but not in Dan.
 My sixth is in Al but not in Don.
 My seventh is in Ralph but not in Will.
 My eighth is in Billy but not in Bill.
 Which month am I?



DAFFODIL CRISS-CROSSWORD
 by Betty Barford

1. Not so good.
2. The number of years you have lived.
3. Moisture found on leaves and flowers in the morning.

Riddles

When the clock strikes 13, what time is it?
 Time to get the clock fixed.

Why is your hand like a hardware store?
 It has nails.

Why did the jelly roll?
 It saw the apple turn over.

What makes a road broad?
 The letter "b".

What is full of holes and yet holds water?
 A sponge.

What has 18 legs and catches flies?
 A baseball team.

When are boys like bears?
 When they are bare-footed.

A slender body, a tiny eye, no matter what
 happens, I never cry. What am I?
 A needle.

What is it that asks no questions but needs many
 answers?
 A doorbell.

What is always behind time?
 The back of a clock.

There Was An Old Woman Of Kent

by Mabel Jones Gabbott

There was an old woman who lived out in
Kent.
She walked with a stoop because her back
was so bent
From picking up things wherever she went.



For Timmy and Tony and Tessie and Kate
Just didn't think they had time to wait
To pick up a ball or a roller skate.

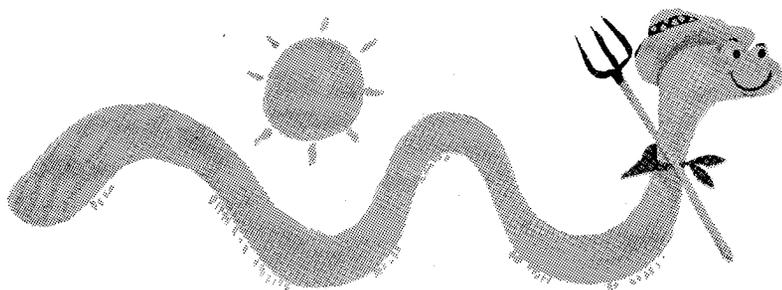


And her Jonathan's room was a den of
confusion,
With sweaters and T-shirts and jeans in
profusion,
And dirty socks dropped where he stopped
to put shoes on.

Also Wilma and Wendy liked a T.V. snack
And spilled popcorn and peanuts and
cracker jack;
So the little old woman had a crooked back.



Now what can you do so your mother, some
day,
Won't have a back bent and crooked this
way?
You guessed it! Pick up and put your things
away.



The Little Farmer

Hundreds of years before men learned to till the soil and to plant gardens, there was a little farmer who knew all about plowing. This little farmer is working for men all over the world. Do you know who he is? He is the plain, ordinary earthworm which you find in your own garden.

The earthworm has no teeth but he manages to eat all he wants by sucking juices from plants and scraping food from certain vegetables. He has no lungs but he breathes through his skin. That is why you usually find him with a damp skin. If he stays in the sunshine too long his skin becomes dry and he is unable to breathe. He usually comes out at night.

During the day Mr. Earthworm lies near the surface of the ground. If he gets too near the top he is caught by some watchful bird. Did you ever see a bird or a chicken pull a worm out of a hole? The worm puts up quite a struggle, doesn't he?

Perhaps you wondered how he managed to hold on so tightly. Even though he has no feet, he does have a double row of very tiny bristles on the underside of his body which help him cling to the ground. Besides this, he has strong muscles.

The earthworm is the best friend we have in the garden. He digs into the earth, making many holes which let air and water into the soil. His tunnels are usually from one foot to eighteen inches long. A heavy rainstorm will flood these little tunnels, forcing him to come to the surface. That is why you see so many worms on the ground after it has rained.

But when Old Man Winter comes with his chilly breath, the earthworm digs down and joins his friends. Then they all coil up together and sleep.

Murray T. Pringle

Debt – a sort of slavery

RICHARD L. EVANS



There is a subject timely at any season, and that has to do with debt. To a conscientious person, unfulfilled obligations are always a cause for concern. One reason is that he who *owes* another does not altogether *own* himself or his own future. Some of his time, his life, his substance, is not in honor his so long as he owes others. And one of the great lessons to be learned by those beginning life together—as well as those who have lived long—is that payment must follow promises; that good credit, the right to be trusted, is one of the most valuable assets of life—and that debts don't dissolve themselves. In all honor, debts must be met, value for value, and what we can't afford or pay for today is not necessarily easier to meet tomorrow. As a whimsical economist has commented: "Expenditure always rises to meet income."¹ But it doesn't necessarily work the other way: Income does not necessarily rise to meet expenditure. And it matters little how much we think we want something, if the debt incurred in getting it is a burden and embarrassment, the lustre of it is soon lost. A past due, unpaid, or unpayable debt is a sort of slavery. We can't necessarily begin where others *are* or where others have arrived after long years of sacrifice and service. "Be content [not] to want things that are not of absolute necessity, rather than to run up the score": said Sir Matthew Hale, "such a man pays, at the latter end, a third part more than the principal, and is in perpetual servitude to his creditors; lives uncomfortably; is necessitated to increase his debts to stop his creditors' mouths; and many times falls into desperate courses."² "A mortgage casts a shadow on the sunniest field,"³ said Robert G. Ingersoll. And Emerson observed, "A man in debt is so far a slave."⁴ Human wants are insatiable. Man is seldom satisfied. And restraining the wants that would lead us deeper into debt requires self-control, and not being too much troubled by the problem of comparison. Furthermore, consolidating debts doesn't pay them. It merely changes the time or place of payment. We should look to what we owe, to what we have, to what we need, to what we can do, and seek ever to be solvent. There is little influence that anyone has unless he is sound and solvent.

¹Cyril Northcote Parkinson.

²Sir Matthew Hale, Eng. jurist, 1790-1879.

³Robert G. Ingersoll, *About Farming in Illinois*.

⁴Emerson, *Conduct of Life: Wealth*.

"The Spoken Word," from Temple Square presented over KSL and the Columbia Broadcasting System, January 21, 1962. Copyright 1962.

図
 書
 案
 内

教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	上質革製合本	1100円
教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	合本	300円
モルモン経	(新訳)	300円
信仰箇条の研究		330円
モルモンとは?	(新版)	150円
総合聖句の手引		150円
日本系図探究要覧		100円
アロン神権者用学科課程		150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用 「モルモン経の読み方の手引」		200円
ナザレのイエス		100円
正しい日本史		100円
家督権の祝福		100円
料理の作り方		50円
求道者教育法		120円
神の王国		230円
基督・イエス		300円

日曜学校用

モルモン経物語	150円
旧約聖書物語	150円
家族の昇栄	200円
福音の実践	200円
奇しきみわざ(上)(下)	200円
我等の標準聖典	200円
古代の使徒	150円
シオン山の救い手たち	200円
教義と聖約の教え	200円

M I A 用

我ら指導者のことば	200円
我らは信じる	200円
我らは生きる	120円
我らは奉仕する (1966年度テキスト)	150円
生活の目標	150円
今日の十誡	250円
MIA・エンサイン・ローレルの手引	150円
演説が上手になる法	150円
素晴しき考え (1966年度テキスト)	200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌 (新版)	400円
レクリエーション歌集	400円

……………注文は各支部長へ……………

THE SEITO NO MICHI

Volume 9, September 1965, Number 9

THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION

TEL (473) 1613. 14 Azabuhiroo-cho Minato-ku Tokyo Japan

支 部 所 在 地

北海道地方部	旭川市八条五丁目 MIA集會場 旭川公会堂 電話(二一五四五)
室蘭	室蘭市幸町八九 電話(七〇五四)
小樽	小樽市富岡町一ノ三五 電話(二一八二四)
札幌	札幌市北二条西二四丁目 電話(六三二七八六〇)
東中央地方部	高崎市並榎町二七五 電話(二一七一二)
群馬	甲府市山田町六三 松本市鷹匠町二六九 新瀉市中大畑町五五七 電話(二一八六六〇)
新潟	仙台市光禪寺通り二八 電話(二五一〇八九七)
仙台	東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇八一三三〇七)
東京中央	東京都中野区江原町一ノ八ノ十四 電話(九五二)一五三一
東京北	東京都江戸川区小岩町六七八〇 電話(六五七)一五二三
東京東	東京都大田区南千束町二四九 電話(七二九)一六三一
東京南	東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七 電話(二一六七六四)
東京西	

山形市七日町四丁目十二ノ二十三
横浜市港北区篠原町二九
電話(四九一八七七二)

西中央地方部

阿倍野 大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話(六二一)一八三二七

福岡 福岡市浄水町四六
電話(五二一)八六五三

広島 広島市古田町古江四〇ノ三
電話(三一)六一三五

金沢 金沢市上胡桃町一一
京都市左京区下鴨松原町四四

名古屋 名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話(七三一)四二二〇

西宮 兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話(五一〇)一四一四

岡町 大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話(二一)二二三六

岡山 岡山市北方七〇
神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話(八六一)二六〇二

三ノ宮 山口市柳井市今市三九一

柳井 山口県柳井市今市三九一

沖繩地方部 沖繩宜野湾市野嵩区三二八
沖繩那覇市松尾区一三九

那覇 東京都港区青山北町六ノ三四
電話(四〇二)一四〇一〇

建築部事務所

聖 徒 の 道

1965年9月1日発行

振替口座 東京 16226 番

発行人兼 編集人 アドニー・小松義雄

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部

東京都港区麻布広尾町 14 (473) 1613

印刷所 合名会社 三五堂